

弘前大学農学生命科学部学術報告

第28号

BULLETIN
OF THE
FACULTY OF AGRICULTURE AND
LIFE SCIENCE
HIROSAKI UNIVERSITY

No.28

付 研究業績目録

2024年10月—2025年9月

Lists of Published Research Works of the Faculty of
Agriculture and Life Science

Hirosaki University

2024 (October) – 2025 (September)

弘前大学農学生命科学部

2026年1月

FACULTY OF AGRICULTURE AND LIFE SCIENCE
HIROSAKI UNIVERSITY
HIROSAKI 036-8561, JAPAN

January, 2026

弘前大学農学生命科学部学術報告

第28号

2026年1月

目 次

令和6年度 あすなろ賞 1

研究業績目録（2024年10月—2025年9月） 9

弘前大学農学生命科学部あすなる賞に関する申合せ

(令和3年11月17日教授会承認)

(目的)

- 1 この申合せは、農学生命科学における優れた研究成果を学術集会で発表する弘前大学農学生命科学部（以下「本学部」という。）、弘前大学大学院農学生命科学研究科（以下「本研究科」という。）及び本学部の専任教員が指導教員となっている弘前大学大学院地域共創科学研究科の学生を弘前大学農学生命科学部あすなる賞（以下「あすなる賞」という。）として顕彰することにより、学生の研究水準の向上を図ることを目的とする。

(対象研究成果と応募資格)

- 2 対象となる研究成果と応募資格は次のとおりとする。
 - (1) 独創的な優れた農学生命科学における研究成果であること。
 - (2) 研究は、弘前大学又はその関連する施設で行われたものであること。
 - (3) 応募者は、全国的又は国際的レベルの学術集会で第一著者として発表する者（発表した者又は発表を予定する者）であること。

(選考方法)

- 3 選考の方法は次のとおりとする。
 - (1) 選考に関しては、発表要旨とともに、発表する学術集会の知名度及び場所、発表する本人の研究実績等も踏まえ選考する。
 - (2) 選考は、本学部研究推進委員会（以下「研究推進委員会」という。）の審査に基づき行い、本研究科委員会で承認する。
 - (3) 審査は、5を最高点とする5階で評価し、平均点の高い者を上位とする。
 - (4) 申請者の指導教員が研究推進委員会委員である場合は、当該学生の選考に参加することはできない。

(受賞)

- 4 受賞については次のとおりとする。
 - (1) 受賞者数は原則毎年15名以内とする。
 - (2) 受賞者には賞状及び副賞を贈呈する。
 - (3) 受賞者の発表演題、著者名、発表学術集会名、開催期間、発表場所は「弘前大学農学生命科学部学術報告」に掲載するものとする。ただし、上記学術報告は本学部ホームページ及び弘前大学学術情報リポジトリとして掲載されるため、演題を掲載できない場合は、申請時に研究推進委員会に申し出ることとする。
 - (4) 申請した学会で発表しなかった場合、あすなる賞の決定を取り消すものとする。

(応募方法)

- 5 あすなる賞の応募者は、次の書類を各6部（正1部、副5部）、弘前大学農学生命科学部総務グループ研究協力担当に1月末日までに提出すること。
 - (1) 申請書
 - (2) 履歴書
 - (3) 指導教員の推薦書（400字以内）
 - (4) 学術集会発表要旨のコピー

附 則

この申合せは、令和3年11月17日から実施する。

附 記

あすなる賞は、弘前大学農学生命科学部における生命科学研究水準の向上を願う、京都大学名誉教授及び弘前大学名誉博士佐藤 矩行氏の御厚意により設立されたものである。

附 則

この申合せは、令和4年10月1日から実施する。

附 則

この申合せは、令和6年8月1日から実施する。

あすなる賞受賞者

令和6年度

井口 日永

色識別学習が得意なメダカは形の識別も得意か？
日本魚類学会年会, R6. 9. 6~9. 9, 福岡工業大学

澤 薫子

著しい乱婚制をとるヨウジウオ *Syngnathus schlegeli* の配偶者選好性
日本魚類学会, R6. 9. 6~9. 9, 福岡工業大学

本城 芽衣

リグニンのアルカリ酸化分解物から4-ヒドロキシ安息香酸を生産する微生物株の作出
日本農芸化学会2025年度大会, R7. 3. 4~3. 9, 北海道札幌市札幌コンベンションセンター

永田 彩夏

発芽玄米のGABAおよびフェルラ酸含量に及ぼす高温の影響
第258回日本作物学会講演会, R6. 9. 26~9. 27, 岡山大学津島キャンパス
白未熟粒の発生および発芽前のGABA含量が発芽玄米のGABA含量に及ぼす影響
第259回日本作物学会講演会, R7. 3. 28~3. 29, 日本大学生物資源科学部湘南キャンパス
BLOF理論で育成した水稲の品質に関する解析~慣行栽培および通常有機栽培との比較~
第259回日本作物学会講演会, R7. 3. 28~3. 29, 日本大学生物資源科学部湘南キャンパス

渡邊 諒

沖縄産ハラビロカマキリの卵休眠の有無と幼虫期間
日本昆虫学会第84回大会・第68回日本応用動物昆虫学会大会合同大会, R6. 3. 28~3. 31, 宮城県仙台市 仙台国際センター
Nymphal period and diapause in the Asian mantis, *Hierodula patellifera*, from Okinawa, Japan, under long-day and short-day conditions
The 27th International Congress of Entomology (ICE2024 Kyoto), R6. 8. 25~8. 30, 京都府京都市 国立京都国際会館
オオカマキリの体色発現に関与する環境要因
日本動物学会 第95回長崎大会, R6. 9. 12~9. 14, 長崎県長崎市 長崎大学文京キャンパス

上原 桜子

寄生性扁形動物カンテツの有性化に関わる分子機構の解明を目指して
日本比較免疫学会 第35回学術集会, R6. 8. 30~9. 1, 慶應義塾大学日吉キャンパス

山 口 葵

線虫ROP-1とY RNAホモログは直腸腺に強い発現を示す

第47回日本分子生物学会年会, R6. 11. 27~11. 29, 福岡県福岡市福岡国際会議場, マリンメッセ福岡A館・B館

小 針 す ず

成体ツメガエルの不完全な四肢再生における軟骨分化冗進の検証

Looking back of studies on planarian regeneration and future directions, R6. 8. 20~8. 21, 愛知県岡崎市基礎生物学研究所・明大寺地区

横 山 千風優

Regulation of shh limb enhancer (MFCS1) activity and its association with DNA methylation in *Xenopus* limb regeneration

1st Asian *Xenopus* Conference, R6. 11. 24~11. 26, 大阪府豊中市 大阪大学, 南部陽一郎ホール

小 山 和 士

いくつかの甘味物質はニワトリに報酬効果をもたらす

日本畜産学会第132回大会, R6. 9. 16~9. 20, 京都大学農学研究科

白 川 日 子

Chaetosphaeriales sp. KT3935株が生産するテルペノイドの構造

日本農芸化学会2025年度札幌大会, R7. 3. 4~3. 8, 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)

宮 城 大 芽

高脂肪食へのロイシン担持ナノ化ホエイタンパク質添加は内臓脂肪の蓄積を抑制する

第78回 日本栄養・食糧学会大会, R6. 5. 24~5. 26, 福岡県福岡市中村学園大学

小 杉 海 斗

カイコ終齢致死変異体は個体の発育と前胸腺の機能不全により致死が誘導される

日本動物学会 第96回大会, R6. 9. 12~9. 14, 長崎大学文教キャンパス

山 中 麻友香

日本のネットメロンにおける全可溶性固形物含量関連遺伝子座の効果と起源

日本育種学会 第146回講演会, R6. 9. 19~9. 20, 広島大学

中 嶋 くるみ

日本の在来メロンであるマクワとシロウリの果実形質に関わるQTLSの推定

日本育種学会 第146回講演会, R6. 9. 19~9. 20, 広島大学

弘前大学農学生命科学部

研究業績目録

2024年10月 – 2025年9月

Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science

Hirosaki University

2024 (October) – 2025 (September)

弘前大学農学生命科学部

2026年1月

Faculty of Agriculture and Life Science

Hirosaki University

Hirosaki 036 – 8561, Japan

January, 2026

は し が き

本号の「研究業績目録」には、2024年10月から2025年9月までの業績を掲載しました。業績の区分は、a－研究論文、b－学術図書、c－その他の著書・訳書、d－学会発表、e－調査・実験報告書、f－その他、とし、各自の申請に基づいています。各学科の教員組織（2025年10月1日現在）は以下の通りです。

生物学科

（基礎生物学コース）

小林一也，西野敦雄，大河 浩，笹部美知子，永長一茂，藤井 祥，吉田 渉，加用大地

（生態環境コース）

東 信行，石田 清，曾我部篤，森井悠太，橋本洸哉，ムラノ千恵

分子生命科学科

（生命科学コース）

牛田千里，森田英嗣，高田 晃，横山 仁，栗田大輔，畠山幸紀

（応用生命コース）

殿内暁夫，橋本 勝，中井雄治，坂元君年，園木和典，濱田茂樹，樋口雄大

食料資源学科

（食料バイオテクノロジーコース）

石川隆二，柏木明子，田中克典，西宮 攻，DINH THI LAM，泉ひかり

（食品科学コース）

岩井邦久，佐藤之紀，中島 晶，君塚道史，津田治敏，西塚 誠，樋口智之，前多隼人，
山元涼子

（食料生産環境コース）

田中和明，松山信彦，金児 雄，管原亮平，直井 崇，藤田一輝

国際園芸農学科

（園芸農学コース）

張 樹槐，前田智雄，松崎正敏，叶 旭君，川端二功，小早川紘樹，田中紀充，本多和茂，
登島早紀

（食農経済コース）

石塚哉史，泉谷眞実，成田拓未，石本雄大，佐藤孝宏，柳 京熙，高野 涼

地域環境工学科

遠藤 明，藤崎浩幸，丸居 篤，森 洋，加藤 幸，森谷慈宙，加藤千尋，鄒 青穎，
岸岡智也，矢田谷健一

生物共生教育研究センター

姜 東鎮，房 家琛，林田大志

白神自然環境研究センター

中村剛之，山岸洋貴，相馬 純

目 次

生物学科	9
基礎生物学コース	9
生態環境コース	11
分子生命科学科	15
生命科学コース	15
応用生命コース	17
食料資源学科	21
食料バイオテクノロジーコース	21
食品科学コース	23
食料生産環境コース	26
国際園芸農学科	29
園芸農学コース	29
食農経済コース	31
地域環境工学科	34
生物共生教育研究センター	38
白神自然環境研究センター	39

業績目録

【生物学科】

【基礎生物学コース】

小林 一也

- d-01. 三浦昂大・村田優哉・熊谷信是・小林一也：プラナリア *Dugesia ryukyuensis* の自切機構解明を目指した研究. 2025年度日本動物学会東北支部大会（東北大学），2025年7月.
- d-02. 吉川暁敬・近藤恵都・藤田昌希・三浦昂大・関井清乃・坂元君年・小林一也：プラナリア卵カプセルで合成される $N\alpha$ -Urocanoyl-5-hydroxytryptophan について. 2025年度日本動物学会東北支部大会（東北大学），2025年7月.
- d-03. 藤田昌希・小岡海人・熊谷信是・小林一也：プラナリアの有性化に関わる Tudor 関連遺伝子の探索. 2025年度日本動物学会東北支部大会（東北大学），2025年7月.
- d-04. 近藤恵都・島倉文明・小林一也：マイクロサテライト解析による3倍体プラナリアの有性生殖の評価について. 2025年度日本動物学会東北支部大会（東北大学），2025年7月.
- d-05. 近藤恵都・島倉文明・小林一也：有性的に異なる倍数性の仔を産生する3倍体プラナリアの変則的な減数分裂の可視化. 日本動物学会第96回名古屋大会2025（ポートメッセなごや），2025年9月.
- d-06. 日野貴章・山田 光・鎌田彪瑠・鹿島 誠・熊谷信是・小林一也：多検体RNA-seq解析を用いたプラナリアの生殖様式を制御する遺伝子に関する研究. 日本動物学会第96回名古屋大会2025（ポートメッセなごや），2025年9月.
- d-07. 上原桜子・大野楽弥・関井清乃・関まどか・小林一也：寄生性扁形動物カンテツの生殖様式転換機構の解明を目指して：精巢分化マーカーFas-boule1の同定. 日本動物学会第96回名古屋大会2025（ポートメッセなごや），2025年9月.
- d-08. 藤田昌希・関井清乃・西塚 誠・柴田典人・阿形清和・小林一也・熊谷信是：プラナリアの生殖器官分化に関与する成体多能性幹細胞特異的RNP顆粒の構成要素DEAD-box型RNA helicase CBC-1について. 日本動物学会第96回名古屋大会2025（ポートメッセなごや），2025年9月.
- d-09. 上原桜子・田島玲音・大野楽弥・関井清乃・関まどか・小林一也：吸虫カンテツの生殖様式転換の分子機構の解明を目指して. 第16回蠕虫研究会（日本文理大学），2025年9月.

西野 敦雄

- a-01. Kuroiwa, K., K. Mita-Yoshida, M. Hamada, A. Hozumi, A. S. Nishino, Y. Sasakura: Tunicate-specific protein Epi-1 is essential for conferring hydrophilicity to the larval tunic in the ascidian *Ciona*. *Dev. Biol.*, **520**: 41–52, April, 2025.
- a-02. Morii, R., S. Yasuda, A. S. Nishino, H. Ikeda: Latitudinal patterns in a reproductive trait driven by sexual selection. *Ecol. Monogr.* **95**: e70017. June, 2025.
- c-01. 西野敦雄: 第11章 ウニ類とホヤ類 後口動物の無脊椎動物. 『ギルバート発生生物学 第2版』(Barresi M. J. F., S. F. Gilbert 著, 阿形清和, 高橋淑子監訳). メディカル・サイエンス・インターナショナル. pp.369–394, 2025年3月.
- d-01. Nishino, A. S., T. Washio, S. Watanabe: A chiral arrangement of myofibrils in bilateral tail muscle cells supports the generation of spiral swimming trajectories of ascidian tadpole larvae. 第52回内藤コンファレンス「物理的・機械的視点が拓く生物学」Frontiers of Physical and Mechanical Biology (シャトレーゼ・ガトーキングダム・サッポロ), 2024年10月.
- d-02. 永岡良太・西野敦雄: ホヤ体壁筋の神経筋標本の確立と極めて長く持続する単収縮の解析. 第130回日本解剖学会, 第102回日本生理学会, 第98回日本薬理学会合同大会(幕張メッセ), 2025年3月.
- d-03. 西野純子・藤掛雄馬・西野敦雄: カタユウレイボヤがもつ3種類の筋肉組織における収縮機能に関わる遺伝子群の発現の比較. 日本動物学会第96回大会(ポートメッセなごや), 2025年9月.
- d-04. 西野敦雄・渡部 翔・鷺尾 巧: ホヤ幼生の右巻き螺旋運動のシミュレーション. 日本動物学会第96回大会(ポートメッセなごや), 2025年9月.

大河 浩

- d-01. 加藤美桜・石井知裕・後藤太政・大河 浩：Synechocystis sp. PCC6803におけるグリコーゲン蓄積変異株の特性比較. 第14回東北植物学会大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-02. 細川みのり・北山二千翔・加藤美桜・大河 浩：シアノバクテリアのポリリン酸顆粒と無機リン酸関連遺伝子との関係. 第14回東北植物学会大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-03. 北山二千翔・成田碧希・大河 浩：Synechococcus elongatus PCC7942におけるC/Pバランスと無機リン酸代謝関連酵素のリン酸取り込みへの寄与. 第14回東北植物学会大会(弘前大学), 2024年12月.

笹部 美知子

- d-01. 山上 楓・鈴木景子・安藤沙友理・岩川秀和・小島晶子・町田千代子・町田泰則・笹部美知子：シロイヌナズナ ASYMMETRIC LEAVES2 (AS2) タンパク質の細胞周期における動態変化とその意義についての考察. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-02. 柴田ちひろ・鈴木景子・安藤沙友理・岩川秀和・大谷美沙都・小島晶子・町田泰則・町田千代子・笹部美知子：シロイヌナズナ ASYMMETRIC LEAVES2 (AS2) タンパク質の動態と発生段階の関係. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-03. 田邊勇登・鈴木景子・安藤沙友理・岩川秀和・大谷美沙都・濱田隆宏・小島晶子・町田泰則・町田千代子・笹部美知子：近接依存性標識法を用いたシロイヌナズナ ASYMMETRIC LEAVES 2 タンパク質の相互作用因子の同定. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-04. 木村拓海・山地良樹・菅原史帆・千葉俊太・笹部美知子：植物の細胞分裂を制御するキネシン14ファミリーータンパク質の相互作用候補因子CHC2の解析. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-05. 高橋 壮・山地良樹・笹部美知子：植物細胞の紡錘体形成に関与する因子の探索. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-06. 蝦名 賛・山地良樹・菅原史帆・千葉俊太・笹部美知子：植物の細胞分裂を制御するキネシン14ファミリーータンパク質の相互作用候補因子BGLC1の解析. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-07. 白石悠太・鈴木啓充・小黒那智・藤本仰一・笹部美知子：マンサクに形成される2種の虫こぶの形態的差異の組織学的な探求. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-08. Shamema Nasrin Julie・Michiko Sasabe：Insights into the Molecular Mechanisms of Gall Formation by *Hamamelistes* Aphids in Japanese witch hazel: Characterization of aphid effector molecules that might influence gall formation. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-09. 高橋乙歌・小黒那智・Julie Shamema Nasrin・大谷美沙都・笹部美知子：マンサクに虫こぶを形成するアブラムシの抽出液が植物細胞の分化と脱分化に及ぼす影響. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-10. 笹部美知子・鈴木景子・小島晶子・安藤沙友理・岩川秀和・大谷美沙都・濱田隆宏・町田泰則・町田千代子：近接依存性標識法を用いた葉の形成に関わるASYMMETRIC LEAVES2 (AS2)タンパク質の相互作用因子の探索. 日本植物学会第89大会(福岡国際会議場), 2025年9月.

永長 一茂

- a-01. Izumi, H., T. Uji, K. Matsumoto, K. Nagaosa, S. Fukuda, : Electroporation-mediated gene delivery in *Pyropia yezoensis* (Rhodophyta) without cell wall removal. Mar. Biotechnol., **27**: 123, August, 2025.
- a-02. Nagaosa, K.: Phagocytic receptors regulate *Drosophila* larval growth. Narra X, 3: e210, June, 2025.
- a-03. Izumi, H., Y. Nakai, T. Uji, K. Nagaosa, S. Fukuda, H. Mizuta, N. Saga: Isolation and characterization of a spore development mutant in *Pyropia yezoensis* (Rhodophyta) induced via insertional mutagenesis. J. Phycol., **61**: 805-819, April, 2025.
- b-01. 永長一茂：食品栄養科学分野でのショウジョウバエの活用 (Using *Drosophila* in food and nutritional sciences). 細胞 **57**(5): 82-84, Apr 2025.
- d-01. 永長一茂・中井雄治・白土明子：ショウジョウバエホモサイトが腫瘍形成に与える影響の解析. がん予防学術大会2025名古屋(名古屋市立大学桜山キャンパス), 2025年9月.
- d-02. 永長一茂・山本 歩・白土明子：ショウジョウバエを用いたカシスアントシアニンの潜在的ながん予防効果の評価. 日本農芸化学会2025年度大会(札幌コンベンションセンター), 2025年3月.

藤井 祥

- b-01. 野戸康生・藤井 祥：葉緑体が発達するときの転写制御のしくみに迫る. アグリバイオ, **8**: 1035–1039, 2024年10月.
- d-01. 丸岡龍平・岩瀬 哲・藤井 祥：コルメラ細胞におけるアミロプラスト分化の制御メカニズムの探索. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-02. 萩原侑輝・藤井 祥：葉緑体分化の過程における葉緑体RNAポリメラーゼの機能制御メカニズムの探究. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-03. 新井田悟・藤井 祥：葉緑体における膜脂質合成誘導系を用いて光合成遺伝子の発現制御メカニズムを解き明かす. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-04. 池田栞梨・辻本侑生・藤井 祥：葉緑体の変化から見る八戸伝統野菜「糠塚きゅうり」の色変化メカニズム. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-05. 藤井 祥：ダイナミックな葉緑体の転写制御を解き明かす ptChIP解析. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-06. 黒滝悠志・藤井 祥：葉緑体発達過程における色素体のファージ型RNAポリメラーゼRPOTmpの機能制御メカニズム. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-07. 野戸康生・萩原侑輝・上床理紗・小林康一・永田典子・藤井 祥：葉緑体における転写は膜脂質合成によって促進される. 東北植物学会第14回大会(弘前大学), 2024年12月.
- d-08. 川向真翔・吉原晶子・小林啓子・永田典子・藤井 祥・小林康一：エチオプラストにおけるホスファチジルグリセロール完全欠損の影響. 第66回日本植物生理学会年会(金沢大学), 2025年3月.
- d-09. 黒滝悠志・藤井 祥：葉緑体分化過程におけるファージ型色素体RNAポリメラーゼの機能解析. 第66回日本植物生理学会年会(金沢大学), 2025年3月.
- d-10. Iwase, A., N. Nagata, S. Fujii, A. Takebayashi, H. Hisano, T. Yaeno, K. Kobayashi, K. Sugimoto: Plastid dynamics and regulatory mechanisms during callus formation. 第66回日本植物生理学会年会(金沢大学), 2025年3月.
- d-11. 黒滝悠志・藤井 祥：葉緑体RNAポリメラーゼの機能における相互作用因子pTAC14のメチルトランスフェラーゼ活性の役割. 第66回日本植物生理学会年会(金沢大学), 2025年3月.
- d-12. Hagiwara, Y., S. Fujii: Exploring regulatory mechanisms of plastid-encoded RNA polymerase during chloroplast differentiation. 第66回日本植物生理学会年会(金沢大学), 2025年3月.
- d-13. 藤井 祥・黒滝悠志：色素体クロマチン免疫沈降法を用いて葉緑体のファージ型RNAポリメラーゼの機能を探索する. 日本植物学会第89回大会(九州大学), 2025年8月.
- d-14. 野戸康生・萩原侑輝・上床理紗・小林康一・永田典子・高林厚史・藤井 祥：葉緑体におけるチラコイド膜形成と遺伝子発現制御の関係性の解明. 日本植物学会第89回大会(九州大学), 2025年8月.
- d-15. 萩原侑輝・藤井 祥：葉緑体分化時の急速な転写誘導を実現する色素体RNAポリメラーゼと核様体の挙動を探索する. 日本植物学会第89回大会(九州大学), 2025年8月.

吉田 渉

- f-01. 吉田 渉：「光ない地底湖に生きるプラナリア, 新種の可能性」コメント. 朝日新聞, 岩手版, 2025年6月.

【生態環境コース】**東 信行**

- a-01. 矢田谷健一・小池晴人・廻立出海・丸居 篤・東 信行：プールタイプ越流式魚道におけるプール間水位差とウキゴリ類の遡上成功率の関係. 農業農村工学会論文集, **92**(2): I_259–I_268, 2024年12月.
- a-02. 矢田谷健一・三木響太郎・丸居 篤・東 信行：カジカ小卵型当歳魚の流水中における挙動と前進能力. 農業農村工学会論文集, **92**(2): II_69–II_75, 2024年12月.
- a-03. Sugawara, T., K. Minami, S. Kim, T. Inagawa, J. Okitsu, S. Sakamoto, T. Osugi, N. Azuma, Y. Zhu, K. Miyashita: Assessing cyanobacterial spatial distribution in reservoirs using acoustic survey techniques for enhanced water quality management. Curr. Res. Microb. Sci., **9**: 100477, September, 2025.
- d-01. 秋山翔午・東 信行：オオクチバス *Micropterus nigricans* を中心とした湖沼の魚類相形成に関わる環境要因の解明. 第69回日本生態学会東北地区会大会(弘前大学), 2024年11月.

- d-02. 五十嵐勇気・横山誠弥・相馬吉裕・鄒 青穎・矢田谷健一・東 信行：青森県の事例から見る透過型砂防堰堤の魚類の移動経路としての機能向上を目的とした工夫. 令和7年度砂防学会研究発表会（長野市），2025年5月.
- d-03. 伊藤和磨・矢田谷健一・廻立出海・丸居 篤・東 信行：越流式プールタイプ魚道における局所改良とニホンウナギの遡上行動の関係. 2025年度（第74回）農業農村工学会大会講演会（ライトキューブ宇都宮），2025年9月.
- d-04. 小野 真・矢田谷健一・堀内孝人・渡邊 潔・丸居 篤・東 信行：側壁傾斜型魚道の壁面改良の基礎的実験. 2025年度（第74回）農業農村工学会大会講演会（ライトキューブ宇都宮），2025年9月.
- d-05. 小野 真・矢田谷健一・堀内孝人・渡邊 潔・丸居 篤・東 信行：側壁傾斜型魚道への球状突起導入による機能向上の基礎的研究. 応用生態工学会第28回新潟大会（新潟大学），2025年9月.
- d-06. 佐々木未悠・高橋雅雄・蛭名純一・東 信行・杵掛展之：ニューナイスズメの繁殖生態：一巢の価値に着目して. 日本鳥学会2025年度大会（北海学園大学），2025年9月.
- d-07. 立石淑恵・高橋雅雄・東 信行：北海道および東北地方におけるチゴハヤブサの営巣環境. 日本鳥学会2025年度大会（北海学園大学），2025年9月.
- d-08. 田中涼太郎・原 星一・曾我部篤・ムラノ千恵・東 信行：スズメ目鳥類における渡りの日周性：その進化的起源と夜間への移行. 日本鳥学会2025年度大会（北海学園大学），2025年9月.
- f-01. 東 信行：リンゴ園のフクロウ. 称徳館特別展～見て・知って～あおもりの生き物たち 講演会（十和田市），2025年6月.

石田 清

- c-01. 石田 清・杉本 咲：山地のブナ集団は晩霜発生時期の時間的・空間的变化に対してどのように局所適応しているか. 北海道の林木育種, **67**: 14-20, 2024.
- d-01. 石田 清・大類瑞穂・深澤優介：ブナ稚樹における春の季節性の標高間変異と遺伝率. 第72回日本生態学会大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月.
- d-02. 堀 文哉・石田 清：ブナ林におけるブナとササの細根バイオマスと窒素利用の標高地形間変異. 第72回日本生態学会大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月.
- d-03. 岡 恵輔・石田 清：ミズナラにおける樹体形成様式の種内変異とその適応的意義. 第72回日本生態学会大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月.
- d-04. 石田 清：山地のブナ集団は晩霜害リスクの時間的空間的変動にどのように適応しているか. 日本生態学会東北地区会大会第69回大会（弘前大学），2024年11月.
- d-05. 工藤甲斐・石田 清：ブナ稚樹における標高傾度に沿った開芽時期の遺伝的分化. 日本生態学会東北地区会大会第69回大会（弘前大学），2024年11月.
- d-06. 宮沢良行・石田 清：ブナが光合成するには八甲田はやや暑い. 第136回日本森林学会大会（北海道大学），2025年3月.
- d-07. Ishida K., Y. Kondo, M. Orui, S. Sugimoto: Genetic differentiation in the timing of budburst along altitude and its causal factors in *Fagus crenata* populations. The 11th EAFES International Congress (Tokyo University). July, 2025.

曾我部 篤

- d-01. 関 海斗・曾我部篤：サヨリに特異的に寄生するウオノエ科等脚類サヨリヤドリムシの宿主選好性. 日本生態学会東北地区会第69回大会青森大会（弘前大学），2024年11月.
- d-02. 田中涼太郎・原 星一・曾我部篤・ムラノ千恵・東 信行：スズメ目鳥類における渡りの日周性：その進化的起源と夜間への移行. 日本鳥学会2025年度大会（北海学園大学），2025年9月.

森井 悠太

- a-01. Saito, T., Y. Ishii, S. Ito, T. M. Linscott, B. Ye, D. Van Tu, S. M. Shariar, L. Prozorova, P. Surenkhorloo, A. S. H. Tan, Y. Fujino, T. Uechi, S. Uchida, D. Yamazaki, Y. Morii, K. Kimura, H. Fukuda, O. Miura, T. Hirano, S. Chiba: The nature of oceanic dispersal in the diversification process on insular systems in Asia. *Glob. Ecol. and Biogeogr.*, **34**: e70114, September, 2025.
- a-02. 森井悠太：日本列島に産するムカシトンボ（昆虫綱：トンボ目：ムカシトンボ科）の分布北限・東限および高標高域の産地の新記録. *Aquatic Animals*, AA2024-29, November, 2024.
- a-03. Kobayashi, K., A. M. Naito, T. Sadakuni, Y. Morii: Long term data reveals increase in vehicle collisions of

endangered birds in Hokkaido, Japan. *Conserv. Sci. and Pract.*, e13250, October, 2024.

- a-04. Ye, B., T. Hirano, J. Xia, Y. Morii, M. Wu, S. Chiba: Conservative trends in phylogenetics and morphology of Chinese Enidae revealed through genome-wide analysis and image clustering. *Zoological Research: Diversity and Conservation*, **1**: 247–261, September, 2024.
- d-01. 森井悠太・小林和也・内藤アンネグレート素・貞國利夫：長期データと状態空間モデルを用いた希少鳥類の交通事故発生パターンの推定. 日本生態学会東北地区会第69回大会(弘前大学), 2024年11月.
- d-02. 森井悠太：カタツムリとオサムシの攻防と進化. 第57回青森昆虫談話会(弘前大学), 2024年11月.
- f-01. 森井悠太：カタツムリとオサムシの攻防と進化. 第41回ひろさき産学官連携イブニングフォーラム(弘前), 2025年11月.
- f-02. 森井悠太：A wild snail chase(カタツムリをめぐる冒険). 京都大学白眉研究員離任式(京都大学), 2024年9月.

橋本 洸哉

- a-01. Ikemoto, M., Y. Wada, K. Hashimoto, H. Fujita, D. Kyogoku: Where do “process-oriented” community ecologists go? In search of general laws that are just “good enough.” *Ecological Research*, **40**: e70002, September, 2025.
- a-02. Ikemoto, M., K. Hashimoto, N. Katayama: Nectar traits and their responses to herbivory in *Solidago altissima* as a dominant introduced flowering herb in Japan. *Plant Species Biology*, **40**: 245–253, February, 2025.
- a-03. Hashimoto, K., D. Hayasaka, Y. Eguchi, Y. Seko, J. Cai, K. Suzuki, K. Goka, T. Kadoya: Multifaceted effects of variable biotic interactions on population stability in complex interaction webs. *Communications Biology*, **7**: 1309, October, 2024.
- d-01. 橋本洸哉：実証研究者が数理研究者と科研費獲得するまで。(公募シンポジウム「数理と実証の協働：経験者は語る」オーガナイザー：橋本洸哉・仲澤剛史)第41回個体群生態学会大会(同志社大学), 2025年9月.
- d-02. Mishima, S., M. Ikemoto, K. Yokogawa, K. Hashimoto: Do spider webs help plants? —Herbivore-mediated indirect effect of spider webs on plants—. The 11th EAFES International Congress (Tokyo Univ.). July, 2025.
- d-03. 橋本洸哉・伊藤公一・池川雄亮：生物個体数の加速度を用いて間接効果を測る—非線形時系列解析による手法の検討. 第72回日本生態学会札幌大会(札幌コンベンションセンター), 2025年3月.
- d-04. 平岩将良・石若直人・橋本洸哉・土屋健司・角谷 拓・早坂大亮：温暖化下における農薬暴露に対する生態応答の評価：地域を超えて適用可能な指標の検討. 第72回日本生態学会札幌大会(札幌コンベンションセンター), 2025年3月.
- d-05. 三嶋大翔・池本美都・横川寛太・橋本洸哉：クモの網が植食者を介して植物に与える間接効果. 第72回日本生態学会札幌大会(札幌コンベンションセンター), 2025年3月.
- d-06. 横川寛太・山尾 僚・池本美都・橋本洸哉：寄主植物の質の季節的变化と幼虫時の経験がイチゴハムシの生存と資源利用に与える影響. 第72回日本生態学会札幌大会(札幌コンベンションセンター), 2025年3月.
- d-07. 木村 仙・橋本洸哉：飛行能力を欠いたスペシャリスト植食者ヨモギハムシの生活史. 第72回日本生態学会札幌大会(札幌コンベンションセンター), 2025年3月.
- d-08. 石若直人・平岩将良・高瀬光貴・橋本洸哉・土屋健司・角谷 拓・早坂大亮：殺虫剤と水温上昇が水生昆虫の羽化に与える相乗効果. 第72回日本生態学会札幌大会(札幌コンベンションセンター), 2025年3月.
- d-09. 池本美都・橋本洸哉・片山 昇・中村祥子・佐々木大介：日本のセイタカアワダチソウとその植食性昆虫に関する最近の話題. 第72回日本生態学会札幌大会(札幌コンベンションセンター), 2025年3月.
- d-10. 橋本洸哉・江口優志・角谷 拓・早坂大亮：生物間相互作用の変動性が人為攪乱下の個体群の安定性に与える多面的な影響. 日本生態学会東北地区会第69回大会(弘前大学), 2024年11月.
- d-11. 横川寛太・橋本洸哉・山尾 僚：絶食刺激と生息密度がイチゴハムシの摂食嗜好性にもたらす影響. 日本生態学会東北地区会第69回大会(弘前大学), 2024年11月.
- d-12. 木村 仙・橋本洸哉：スペシャリスト植食性昆虫ヨモギハムシ(*Chrysolina aurichalcea*)の飛行筋多型性と飛行能力消失の要因. 日本生態学会東北地区会第69回大会(弘前大学), 2024年11月.
- d-13. 三嶋大翔・池本美都・横川寛太・橋本洸哉：クモの網は植食者を介して植物にどのような間接効果を与えるか. 日本生態学会東北地区会第69回大会(弘前大学), 2024年11月.
- d-14. Mishima, S., M. Ikemoto, K. Yokogawa, K. Hashimoto: Do spider webs have indirect effect on plants? The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024 in Okinawa. November, 2024.
- d-15. Hashimoto, K., K. Ito, Y. Ikegawa: Estimation of per capita interaction effect using multivariate S-map:

- implementation, applications, and future extensions. The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024 in Okinawa. November, 2024.
- d-16. Nagano, K., M. Hiraiwa, N. Ishiwaka, Y. Seko, K. Hashimoto, D. Hayasaka: Different response of a native dragonfly species against a poleward-expanding invader along a latitudinal gradient. The Joint Meeting of the Annual Meeting of the Society of Population Ecology and Taiwan-Japan Ecology Workshop 2024 in Okinawa. November, 2024.
- d-17. 石若直人・平岩将良・橋本洸哉・土屋健司・角谷 拓・早坂大亮：殺虫剤と温暖化による複合影響はトンボ類の減少を介して群集全体へと波及するか？：野外操作実験による検証. 日本陸水学会第88回大会（熊本大学），2024年10月.
- f-01. 三嶋大翔：クモの網は植食者を介して植物にどのような間接効果を与えるか. 日本生態学会東北地区会第69回大会. 地区大会発表賞最優秀賞.（指導教員：橋本洸哉）

ムラノ 千恵

- d-01. Chie, M.: Effects of different snow cover conditions on the breeding of Japanese field voles. IX European Congress of Mammalogy (ECM9), (Patras, Greece). March. 2025.
- d-02. ムラノ千恵：冬期の餌供給はハタネズミによる果樹被害を軽減できるか. 日本哺乳類学会札幌大会（酪農学園大学），2025年8月.
- d-03. 田中涼太郎・原 星一・曾我部篤・ムラノ千恵・東 信行：スズメ目における渡りの日周性：その進化的起源と夜間への移行. 日本鳥学会札幌大会（北海学園大学・北海道大学），2025年9月.

【分子生命科学科】

【生命科学コース】

牛田 千里

- a-01. Shovon, S. R., T. Uematsu, Y. Osaki, T. Masui, T. Koyama, T. Fujiwara, C. Ushida: Starvation changes the pre-rRNA accumulations in *Caenorhabditis elegans*. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **742**: 151125, Dec., 2024.
- a-02. Haque, M. F., T. Tarusawa, C. Ushida, S. Ito, H. Himeno: cAMP-CRP-activated *E. coli* causes growth arrest under stress conditions. *Front. Microbiol.*, **16**: 1597530, Aug., 2025.
- a-03. Koyama, T., T. Masui, T. Uematsu, C. Ushida, : Lack of CeR-2a RNA gene delays egg-laying onset in *C. elegans* mutant. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* **778**: 152306, Sep., 2025.
- d-01. 山口 葵・千葉剛大・今泉匡亮・ショボン シヤハリアル・杉田秀成・牛田千里：線虫 ROP-1 と Y RNA ホモログは直腸腺に強い発現を示す。第47回日本分子生物学会年会(福岡国際会議場), 2024年11月.
- d-02. 津曲美羽・菅原颯人・牛田千里・河合剛太：線虫から見出されたりボソーム成熟化に関与する低分子RNAと構造の解析。第26回日本RNA学会年会(トークネットホール仙台), 2025年7月.

森田 英嗣

- a-01. Lu, SL., S. Chen, K. Noda, Y. Li, CY. Tsai, H. Omori, Y. Kato, Z. Zhang, B. Chen, K. Tokuda, T. Zheng, M. Wakita, E. Hara, M. Fukuda, Y. Wada, E. Morita, N. Uzawa, S. Murakami, T. Noda: Mitochondria in macrophages are destroyed by microautophagy. *Nat Commun.*, **16**: 8123, Aug, 2025.
- a-02. Yoshida, M., H. Nunomura, A. Furuta, K. Yamada, I. Yasuda, K. Takemura, S. Tsuda, A. Yamaki-Ushijima, T. Shima, R. Ogawa, Q. Zhao, JI. Saitoh, K. Saito, E. Morita, M. Okodo, A. Nakashima: SQSTM1/p62 Drives Radiosensitivity in Cervical Cancer via Autophagy -Independent Mechanisms. *J Reprod Immunol.*, **171**: 104633, Sep, 2025.
- a-03. Ohta, S., K. Ishida, S. Goto, R. Iwatsuki, K. Saito, E. Morita: Various states of the capsid proteins released from Japanese encephalitis virus-infected cells. *Virology.*, **610**: 110622, Sep, 2025.
- a-04. Izumida, K., S. Ohta, R. Iwatsuki, Y. Hara, K. Tabata, T. Matsumoto, T. Sato, R. Kitamura, E. Morita: Molecular insights into the purified core protein of hepatitis C virus and the roles of its basic and hydrophobic amino acid clusters. *Virology.*, **610**: 110608, Sep, 2025.
- a-05. Ishida, K., E. Morita: Synchronized Visualization and Analysis of Intracellular Trafficking and Maturation of Orthoflavivirus Subviral Particles. *Bioprotocol.*, **15**(10): e5324, May, 2025.
- a-06. Arakawa, M., K. Uriu, K. Saito, M. Hirose, K. Katoh, K. Asano, A. Nakane, T. Saitoh, T. Yoshimori, E. Morita: HEATR3 recognizes membrane rupture and facilitates xenophagy in response to *Salmonella* invasion. *Proc Natl Acad Sci USA.*, **122**(14): e2420544122, Apr, 2025.
- a-07. Munakata, H., Y. Sohma, K. Ishida, E. Morita, SI. Sato, M. Hagihara: Triggerable peroxidase-tagged primer enables naked eye monitoring of PCR amplification. *Chemistry Letters.*, **53**(10): 190, Oct, 2024.
- a-08. Munakata, H., Y. Sohma, K. Utsumi, R. Ohno, K. Ishida, E. Morita, SI. Sato, M. Hagihara: Development of Triggerable Peroxidase-Tagged Primers for Colorimetric DNA Detection Applicable to Various DNA Polymerases. *Chemistry Letters.*, **53**(11): 212, Nov, 2024.
- a-09. Izumida, K., Y. Hara, R. Iwatsuki, S. Ohta, K. Tabata, E. Morita: In vitro characteristics of purified recombinant hepatitis C virus core protein. *Virology.*, **601**: 110297, Jan, 2025.
- a-10. Kimura, S., J. Ong, A. Kasai, S. Akada, H. Ebina, M. Sasabe, E. Morita: Human Parvovirus B19 Virus-Like Particle Formation in *Nicotiana benthamiana*. *Protein Expr Purif.*, **226**: 106616, Feb, 2025.
- a-11. Kimura, S., H. Suzuki, Y. Hatakeyama, N. Noguchi, K. Ii, K. Nakamura, H. Ebina, E. Morita: Efficient Neutralizing Antibody Induction by Human Parvovirus B19 Epitope Presenting Protein Nanoparticles. *Microbiology and Immunology.*, **69**(1): 35-42, Jan, 2025.
- d-01. 秦 靖・石田幸太郎・野口貴史・有井 潤・森 康子・蝦名博貴・森田英嗣：HiBiT レポータータグ組換えアデノ随伴ウイルスの開発。第71回日本ウイルス学会学術集会(ウインクあいち), 2024年11月.
- d-02. 森田英嗣：フラビウイルス感染細胞における複製オルガネラ形成の分子機構。第97回日本生化学会大会(パシフィコ横浜ノース), 2024年11月.

- d-03. Eiji Morita: The role of post-translational modification in flavivirus particle formation and release. 第47回日本分子生物学会年会(福岡国際会議場マリノメッセ福岡), 2024年11月.
- d-04. 石田幸太郎・坂本 翔・甲賀大輔・川端二功・森田英嗣: 小胞体カルシウム恒常性の破綻を介した日本脳炎ウイルス複製環境の誘導. 第59回日本脳炎ウイルス生態学研究会(アソベの森いわき荘・弘前), 2025年5月.
- d-05. 齊藤晃樹・森田英嗣: HiBiT タグノックインによるオートファジーレセプターp62の高感度検出系の開発と細胞外分泌機構の解析. 第91回日本生化学会東北支部例会・シンポジウム(東北医科薬科大学 小松島キャンパス・宮城), 2025年6月.
- d-06. 太田空良・石田幸太郎・後藤史門・岩槻緑太・森田英嗣: フラビウイルス感染細胞における多様なキャプシドの分泌形態. 第91回日本生化学会東北支部例会・シンポジウム(東北医科薬科大学 小松島キャンパス・宮城), 2025年6月.
- d-07. 平野華奈子・前田昂樹・高橋和奏・荒川将志・齊藤晃樹・森田英嗣: 細胞外小胞形成におけるテトラスパニン蛋白質群の関与. 第91回日本生化学会東北支部例会・シンポジウム(東北医科薬科大学 小松島キャンパス・宮城), 2025年6月.
- d-08. 亀田倫史・Tien Thanh Bui・小林海渡・中道優介・森田英嗣: 分子動力学シミュレーションと機械学習による新型コロナウイルス進化予測. 第25回日本蛋白質科学会年会(アクリエひめじ), 2025年6月.
- d-09. 太田空良・石田幸太郎・後藤史門・岩槻緑太・森田英嗣: フラビウイルス感染細胞における多様なキャプシドの分泌形態. 第77回日本細菌学会東北支部総会・学術集会(弘前文化センター), 2025年8月.
- d-10. 岩槻緑太・森田英嗣: 日本脳炎ウイルスの侵入に関与するE蛋白質アミノ酸残基の同定. 第77回日本細菌学会東北支部総会・学術集会(弘前文化センター), 2025年8月.

横山 仁

- a-01. Kobari, S., H. Yokoyama, K. Kato, R. Sato, N. Kitagawa, J. Sakamoto, Y. Kamei, H. Yokoyama: Excessive chondrogenesis in the blastema initiates during hypomorphic limb regeneration in *Xenopus* froglet, but not during patterned limb regeneration in *Xenopus* tadpoles and newts. bioRxiv, doi: 10.1101/2025.03.29.646070, 2025.
- d-01. Chifuyu Yokoyama・Reimi Tada・Takuya Higashidate・Takanori Amano・Saki Nara・Akane Kawaguchi・Nayuta Yakushiji・Haruki Ochi・Hajime Ogino・Joe Sakamoto・Yasuhiro Kamei・Koji Tamura・Hitoshi Yokoyama: Regulation of shh limb enhancer (MFCSI) activity and its association with DNA methylation in *Xenopus* limb regeneration. 1st Asian *Xenopus* Conference. (大阪大学), 2024年11月.
- d-02. Suzu Kobari・Hibiki Yokoyama・Kagayaki Kato・Rina Sato・Nana Kitagawa・Joe Sakamoto・Yasuhiro Kamei・Hitoshi Yokoyama: Excessive chondrogenesis in the blastema initiates during hypomorphic limb regeneration in *Xenopus* froglet, but not during patterned limb regeneration in *Xenopus* tadpoles and newts. 日本発生生物学会第58回名古屋大会(ウインクあいち), 2025年7月.
- d-03. 大和歩実・奈良 咲・嶋田侑莉・横山 仁: 背側化因子 *lmx1b* の発現誘導によるツメガエルの四肢再生での背腹軸形成の回復の試み. 日本動物学会東北支部仙台大会(東北大学), 2025年7月.
- d-04. 對馬龍星・坂本 丞・亀井保博・佐藤 伸・根本知己・横山 仁: アフリカツメガエルとイベリアトゲイモリの間での皮膚再生様式の比較: 四肢再生に伴う皮膚再生の観察. 日本動物学会第96回名古屋大会(ポートメッセなごや), 2025年9月.

栗田 大輔

- d-01. Kurita, D., Y. Okubo, T. Kasuya, N. Nameki, H. Himeno, T. Yokoyama: Pseudouridines on 23S rRNA play an essential role in ArfB-mediated ribosome rescue. 29th tRNA conference (金沢文化ホール), 2024年11月.

畠山 幸紀

- f-01. 畠山幸紀: 教育用 Web サイトの公開. <https://moodle.hirosaki-u.ac.jp/course/view.php?id=30981>, 2024年10月.

【応用生命コース】

殿内 暁夫

- a-01. 清水誠也・殿内暁夫：青森県で採取された日本新産種 *Russula lakhanpalii*. 日本菌学会会報, **65**: 47–55, November, 2024.
- a-02. Kawaguchi, S., D. Chinda, S. Ota, A. Tonouchi, H. Maeda, K. Miura, G. Soma, H. Hiraga, K. Ueno, T. Nioka, M. Tachizaki, K. Seya, T. Imaizumi, S. Fukuda, H. Sakuraba: Heat-killed *Lactococcus lactis* subsp. *lactis* L8 ameliorates dextran sulfate sodium-induced colitis in mice. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*, **76**: 264–270, March, 2025.
- a-03. Ueki, A., A. Tonouchi, N. Kaku, S. Honma, K. Ueki: *Inconstantimicrobium mannanitabidum* sp. nov., a novel member of the family *Clostridiaceae* isolated from anoxic soil under the treatment of reductive soil disinfestation. *International Journal of Systematic and Evolutionary Microbiology*, **75**: 006748, April, 2025.
- b-01. 殿内暁夫・宮入一夫：白神自然観察園のきのこ (12). 弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター, 2025年3月.
- d-01. 時崎太一郎・玉山紫野・殿内暁夫・前多隼人・橋本 勝：線虫捕食菌 *Sistotrema* sp. 1-15が産生する殺線虫活性物質. 日本農芸化学会東北支部第159回大会 (福島), 2024年9月.

橋本 勝

- a-01. Kirisawa, K., S. Sato, A. Minami, H. Maeda, K. Tanaka, M. Hashimoto: Isolation and Identification of Xanthone, Benzofuran, and Spirolactone Derivatives from *Dinemasporium parastrigosum* KT4144 and Their Plausible Biosynthetic Pathways, *J. Nat. Prod.* **88**(6): 1453–1462, May, 2025.
- a-02. Murakami, A., R. Kanehara, K. Tanaka, M. Hashimoto: Gregarithecinol, a Trichodiene/Bazzanene Derivative from *Gregarithecium curvisporum* KT4079: DFT-Supported Stereochemical Elucidation of Units Linked by a Rotatable Bond, *Tetrahedron Letters*, **88**(4): 1085–1090, May, 2025.
- a-03. Kanehira, R., H. Abe, H. Ito, R. Kanehara Mr., H. Maeda, K. Tanaka, M. Hashimoto: Isolation of 6,7-Iso-felinone A: A Configurational Reinvestigation of Related Fungal Metabolites, *J. Nat. Prod.* **88**(4): 1085–1090, March, 2025.
- a-04. Kanehara, R., Y. Oinuma, H. Maeda, K. Tanaka, M. Hashimoto: Triantspirols A–C and Paraphaeolactone Cs from *Paraphaeosphaeria* sp. KT4192: Sensitivity of CP3 in Distinguishing Close NMR Signals, *J. Nat. Prod.* **87**(10): 2487–2498, October, 2024.
- d-01. 桐澤康生・田中和明・前多隼人・佐藤秀亮・南 篤志・橋本 勝： *Dinemasporium parastrigosum* KT4144 から単離した新規キサントン類. 第67回天然有機化合物討論会 (仙台), 2025年9月9日, 9月11日.
- d-02. 金原龍飛・白川日子・坂下 隼・三浦聖美・生沼悠希・橋本 勝：DFT計算を活用したエポキシドの立体配置決定の試み. 第67回天然有機化合物討論会 (仙台), 2025年9月9日, 9月11日.
- d-03. 桐澤康生・佐藤秀亮・南 篤志・前多隼人・田中和明・橋本 勝：真菌由来の新規 xanthone 誘導体の構造決定. 第17回化学生態学研究会, 2025年6月14日.
- d-04. 金原龍飛・坂下 隼・橋本 勝：DFT計算支援によるエポキシド立体配置決定の試み. 第17回化学生態学研究会, 2025年6月14日.
- d-05. 兼平 類・金原龍飛・阿部秀樹・伊藤久央・前多隼人・田中和明・橋本 勝：6,7-iso-felinone Aの単離・関連化合物の再調査. 第17回化学生態学研究会, 2025年6月14日.
- d-06. 白川日子・金原龍飛・兼平 類・田中和明・橋本 勝： *Chaetosphaeriales* sp. KT3935株が生産するテルペノイドの構造. 日本農芸化学会2025年度札幌大会, 2025年3月7日.
- d-07. 兼平 類・金原龍飛・阿部秀樹・伊藤久央・前多隼人・田中和明・橋本 勝：6,7-iso-felinone Aの単離・関連化合物の再調査. 日本農芸化学会2025年度札幌大会, 2025年3月7日.
- d-08. 桐澤康生・田中和明・前多隼人・橋本 勝： *Dinemasporium parastrigosum* KT4144由来の新規 xanthone 類の構造解析研究. 日本農芸化学会2025年度札幌大会, 2025年3月7日.
- d-09. 時崎太一郎・田中和明・前多隼人・橋本 勝： *Rousoella* sp. KT4147の産生する新規スピロビスナフタレン化合物. 日本農芸化学会2025年度札幌大会, 2025年3月7日.
- d-10. 金原龍飛・橋本 勝：天然物のDFT計算に適した汎関数の検討. 日本農芸化学会2025年度札幌大会, 2025年3月7日.
- d-11. 橋本 勝：天然物構造決定におけるDFT計算の活用. サントリー生物有機化学研究所講演会 (奈良), 2025年5

月16日.

- d-12. 橋本 勝：天然物構造決定におけるDFT計算の活用. 第58回天然物化学談話会(千葉), 2025年7月13日-15日.
 d-13. 橋本 勝：天然物構造決定におけるDFT計算の活用. 中央大学理学部講演会(東京), 2025年7月23日.
 d-14. 橋本 勝：天然物構造決定におけるDFT計算の活用. 九州大学理学部講演会(東京), 2025年7月29日.

中井 雄治

- a-01. Izumi, H., Y. Nakai, T. Uji, K. Nagaosa, S. Fukuda, H. Mizuta, N. Saga: Isolation and characterization of a spore development mutant in *Pyropia yezoensis* (Rhodophyta) induced via insertional mutagenesis. *J. Phycol.*, **61**: 805-819, May, 2025.
 d-01. Kojima, H., Y. Nakai: Examination to reveal mechanisms for suppression of cytotoxic T lymphocyte activation by target cells. 第53回日本免疫学会学術集会(出島メッセ長崎), 2024年12月.
 d-02. Tashiro, M., Y. Hirahara, M. Nonoyama, Y. Nakai, R. Yamagata, Y. Ishii, T. Sato, Y. Noda, Y. Miyoshi, K. Enomoto, Y-G. Yin, N. Suzui, N. Kakachi, A. Shinozawa, K. Sato-Izawa, S. Nakamura: Effects of root-applied glutathione on nickel behavior in roots of oilseed rape plants (*Brassica napus*). International Conference on Serpentine Ecology (Rekisaikan, Kyoto, Japan), 2025年6月.
 d-03. 永長一茂・中井雄治・白土明子：ショウジョウバエヘモサイトが腫瘍形成に与える影響の解析. 第32回がん予防学会総会(名古屋市立大学), 2025年9月.
 d-04. 田代真悠・平原裕太郎・野々山桃子・中井雄治・鈴木伸郎・尹 永根・三好悠太・野田祐作・榎本一之・山縣諒平・佐藤隆博・石井保行・河地有木・篠澤章久・伊澤かんな・中村進一：根に与えたグルタチオンが誘導するアブラナのニッケル動態制御機構の解明. 日本土壤肥料学会2025年度新潟大会(新潟大学), 2025年9月.
 d-05. 周 恬亦・湯澤 拓・中井雄治・青山塔子・篠澤章久・伊澤かんな・大津(大鎌)直子・中村進一：根に与えたグルタチオンがアブラナ根細胞壁のカドミウム保持能力に及ぼす影響. 日本土壤肥料学会2025年度新潟大会(新潟大学), 2025年9月.

坂元 君年

- a-01. Sasaki, H., Y. Yanagihara, Y. Satofuka, M. Hasegawa, Y. Kashiyama, K. Sakamoto, Y. Toya, H. Shimizu, T. Fujiwara, S. Miyagishima, M. Ueda, T. Sakamoto, M. Nakazawa: Engineering anaerobic electron flow through heterologous rhodoquinone synthesis in model microbial and photosynthetic platforms. *J. Biosci. Bioeng.*, **140**(1): 14-20, July, 2025.
 d-01. 加藤 梓・坂元君年・山元涼子：MASLDモデルマウスの血中および肝臓中のビタミンB6の分析. 令和6年度日本栄養・食糧学会東北支部(第58回大会)・北海道支部(第54回大会)合同支部大会(北海道大学), 2024年12月.
 d-02. 加藤 梓・坂元君年・西塚 誠・山元涼子：代謝機能障害関連脂肪性肝疾患発症時のビタミンB6代謝の解析. 第79回日本栄養・食糧学会大会(名古屋大学), 2025年5月.
 d-03. 熊谷一希・大沼 碧・坂元君年：プラナリア用合成飼料の開発を目指して. 第16回蠕虫研究会(日本文理大学), 2025年9月.

園木 和典

- a-01. Ookawa Z., Y. Higuchi, M. Fujita, T. Sonoki, N. Kamimura, E. Masai: Catabolic system of syringic acid, a key intermediate of lignin-derived aromatic compounds, via a novel linear pathway in *Pseudomonas* sp. NGC7. *J. Agric. Food Chem.*, **73**: 18899-18913, July, 2025.
 a-02. Jindo K., T. Sonoki, M. A. Sánchez Monedero: Stabilizing organic matter and reducing methane emissions in composting with biochar to strengthen the role of compost in soil health. *Soil Environ. Health*, **3**: 100164, June, 2025.
 a-03. Kamada M., C. Yasuta, Y. Higuchi, A. Yoshida, I. Kurnia, C. Sakamoto, A. Takeuchi, Y. Osaka, K. Muraki, N. Kamimura, E. Masai, T. Sonoki: Engineering a vanillate-producing strain of *Pseudomonas* sp. NGC7 corresponding to aromatic compounds derived from the continuous catalytic alkaline oxidation of sulfite lignin. *Microb. Cell Fact.*, **23**: 313, November, 2024.
 a-04. Yoshida A., I. Kurnia, Y. Higuchi, Y. Osaka, C. Yasuta, C. Sakamoto, M. Tamura, T. Takamatsu, N. Kamimura, E. Masai, T. Sonoki: Direct catalytic oxidation of rice husk lignin with hydroxide nanorod-modified copper foam and muconate production by engineered *Pseudomonas* sp. NGC7. *J. Biosci. Bioeng.*, **138**: 431-438, November,

2024.

- d-01. 池田和磨・児玉直哉・大川 全・樋口雄大・上村直史・政井英司・園木和典：多様な芳香族混合物からのバニリン酸の選択的な生産を阻害する代謝プロセスの評価。第77回日本生物工学会大会（広島工業大学 五日市キャンパス），2025年9月。
- d-02. 村木香渚美・羽柴祐希・樋口雄大・吉川琢也・吉田暁弘・上村直史・政井英司・園木和典：サトウキビバガス由来リグニン分解物からのバニリン酸の選択的な生産に向けた*Pseudomonas* sp. NGC7株の代謝最適化。第77回日本生物工学会大会（広島工業大学 五日市キャンパス），2025年9月。
- d-03. 田中謙太郎・白川夢大・高松 翼・五十嵐悠真・樋口雄大・園木和典・吉田暁弘：Optimization of conditions for simultaneous recovery of aromatic monomers and cellulose from rice straw via direct oxidative depolymerization using a copper catalyst. 令和7年度 化学系学協会東北大会（山形大学米沢キャンパス），2025年9月。
- d-04. 五十嵐悠真・田中謙太郎・白川夢大・高松 翼・樋口雄大・園木和典・吉田暁弘：Oxidative depolymerization of lignin using a copper hydroxide catalyst immobilized on a copper mesh. 令和7年度 化学系学協会東北大会（山形大学米沢キャンパス），2025年9月。
- d-05. 池田和磨・児玉直哉・大川 全・樋口雄大・上村直史・政井英司・園木和典：バガスアルカリ加水分解物からのバニリン酸生産においてシリング酸の分解が抑制される分子機構の解析。日本農芸化学会 2025年度大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月。
- d-06. 本城芽衣・佐藤壮太・樋口雄大・入山 就・高松 翼・吉田暁弘・若村 修・園木和典：リグニンのアルカリ酸化分解物から4-ヒドロキシ安息香酸を生産する微生物株の作出。日本農芸化学会 2025年度大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月。
- d-07. 村木香渚美・羽柴祐希・樋口雄大・吉川琢也・逢坂優太・渡辺利樹・吉田暁弘・上村直史・政井英司・竹内大介・園木和典：サトウキビバガス由来オルガノソルブリグニンからのバニリン酸生産系の構築。日本農芸化学会 2025年度大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月。
- d-08. 王 玥琳・大関さおり・樋口雄大・大川 全・上村直史・政井英司・栗原宏征・園木和典：A *Pseudomonas* sp. NGC7-based engineered strain enables glucose-free 4-hydroxybenzoate production. 日本農芸化学会 2025年度大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月。
- d-09. 大川 全・藤田雅也・樋口雄大・園木和典・上村直史・政井英司：*Pseudomonas* sp. NGC7株における広葉樹リグニン由来の芳香族モノマー，シリング酸の代謝システム。日本農芸化学会 2025年度大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月。
- d-10. Sonoki, T.: Glucose-free platform chemical production by the engineered catabolic pathway of *Pseudomonas* sp. NGC7. Workshop on Carbon Cultivation (Helmholtz Centre for Environmental Research-UFZ, Leipzig, Germany). Oct 14–15, 2024.

濱田 茂樹

- d-01. 山田梨乃・中嶋愛唯・濱田茂樹：性質の異なる突然変異米を用いた製パン特性の解析。第16回日本応用糖質科学会東北支部会講演会（秋田カレッジプラザ），2025年7月。

樋口 雄大

- a-01. Yuhazu M., Y. Higuchi, A. Kanazawa, M. Senda: Large deletions including inverted repeats of the pseudo*CHS* gene in seed-coat-pigmented mutants derived from Japanese yellow soybean cultivars. *Breed. Sci.*, **75**: 334–338, August, 2025.
- a-02. Ookawa Z., Y. Higuchi, M. Fujita, T. Sonoki, N. Kamimura, E. Masai: Catabolic system of syringic acid, a key intermediate of lignin-derived aromatic compounds, via a novel linear pathway in *Pseudomonas* sp. NGC7. *J. Agric. Food Chem.*, **73**: 18899–18913, July, 2025.
- a-03. Kamada M, C. Yasuta, Y. Higuchi, A. Yoshida, I. Kurnia, C. Sakamoto, A. Takeuchi, Y. Osaka, K. Muraki, N. Kamimura, E. Masai, T. Sonoki: Engineering a vanillate-producing strain of *Pseudomonas* sp. NGC7 corresponding to aromatic compounds derived from the continuous catalytic alkaline oxidation of sulfite lignin. *Microb. Cell Fact.*, **23**: 313, November, 2024.
- a-04. Yoshida A., I. Kurnia, Y. Higuchi, Y. Osaka, C. Yasuta, C. Sakamoto, M. Tamura, T. Takamatsu, N. Kamimura, E. Masai, T. Sonoki: Direct catalytic oxidation of rice husk lignin with hydroxide nanorod-modified copper foam

and muconate production by engineered *Pseudomonas* sp. NGC7. *J. Biosci. Bioeng.*, **138**: 431–438, November, 2024.

- d-01. 池田和磨・児玉直哉・大川 全・樋口雄大・上村直史・政井英司・園木和典：多様な芳香族混合物からのバニリン酸の選択的な生産を阻害する代謝プロセスの評価. 第77回日本生物工学会大会（広島工業大学 五日市キャンパス），2025年9月.
- d-02. 村木香渚美・羽柴祐希・樋口雄大・吉川琢也・吉田暁弘・上村直史・政井英司・園木和典：サトウキビバガス由来リグニン分解物からのバニリン酸の選択的な生産に向けた*Pseudomonas* sp. NGC7株の代謝最適化. 第77回日本生物工学会大会（広島工業大学 五日市キャンパス），2025年9月.
- d-03. 田中謙太郎・白川夢大・高松 翼・五十嵐悠真・樋口雄大・園木和典・吉田暁弘：Optimization of conditions for simultaneous recovery of aromatic monomers and cellulose from rice straw via direct oxidative depolymerization using a copper catalyst. 令和7年度 化学系学協会東北大会（山形大学米沢キャンパス），2025年9月.
- d-04. 五十嵐悠真・田中謙太郎・白川夢大・高松 翼・樋口雄大・園木和典・吉田暁弘：Oxidative depolymerization of lignin using a copper hydroxide catalyst immobilized on a copper mesh. 令和7年度 化学系学協会東北大会（山形大学米沢キャンパス），2025年9月.
- d-05. 池田和磨・児玉直哉・大川 全・樋口雄大・上村直史・政井英司・園木和典：バガスアルカリ加水分解物からのバニリン酸生産においてシリング酸の分解が抑制される分子機構の解析. 日本農芸化学会2025年度大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月.
- d-06. 本城芽衣・佐藤壮太・樋口雄大・入山 就・高松 翼・吉田暁弘・若村 修・園木和典：リグニンのアルカリ酸化分解物から4-ヒドロキシ安息香酸を生産する微生物株の作出. 日本農芸化学会2025年度大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月.
- d-07. 村木香渚美・羽柴祐希・樋口雄大・吉川琢也・逢坂優太・渡辺利樹・吉田暁弘・上村直史・政井英司・竹内大介・園木和典：サトウキビバガス由来オルガノソルブリグニンからのバニリン酸生産系の構築. 日本農芸化学会2025年度大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月.
- d-08. 王 玥琳・大関さおり・樋口雄大・大川 全・上村直史・政井英司・栗原宏征・園木和典：A *Pseudomonas* sp. NGC7-based engineered strain enables glucose-free 4-hydroxybenzoate production. 日本農芸化学会2025年度大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月.
- d-09. 大川 全・藤田雅也・樋口雄大・園木和典・上村直史・政井英司：*Pseudomonas* sp. NGC7株における広葉樹リグニン由来の芳香族モノマー，シリング酸の代謝システム. 日本農芸化学会2025年度大会（札幌コンベンションセンター），2025年3月.
- f-01. 樋口雄大：リグニン由来芳香族化合物への耐性に関わる薬剤排出ポンプの機能解析. 公益財団法人発酵研究所 第19回助成研究報告会（千里ライフサイエンスセンター），2025年6月.

【食料資源学科】

【食料バイオテクノロジーコース】

石川 隆二

- a-01. Dinh TL., K. Tanaka, S. Takashima, S. Shibutani, R. Ishikawa: Genetic diversity on farm in Japanese paper mulberry Ecology and Evolution **15**(e70828), Jan, 2025.
- a-02. Zelalem Z., M. Atnaf, R. Sayo, R. Ishikawa, A. Abe, M. Matsunami, H. Shimono: Comparison of rice yield potential in Ethiopia and in northern Japan: an experimental and modeling study Journal of Agricultural Meteorology. Journal of Agricultural Meteorology **81**(1): 36-43, Jan, 2025.
- a-03. Tanaka, T., G. Shigita, TP. Dung, PTP. Nhi, M. Takahashi, Y. Monden, H. Nishida, R. Ishikawa, K. Kato: Polyphyletic domestication and inter-lineage hybridization magnified genetic diversity of cultivated melon, *Cucumis melo* L (2025), Breed. Sci. **75**(3), July, 2025.
- d-01. 小渡いさぎ・石川隆二: QTL解析を用いた胴割れに関するゲノム内耐性領域の特定. 第19回東北育種研究集会(山形大学農学部), 2024年11月30日.
- d-02. 熊倉真里・小渡いさぎ・石川隆二: 高度胴割れ耐性系統に誘発した巨大胚変異体の原因遺伝子の特定とその育種利用. 第19回東北育種研究集会(山形大学農学部), 2024年11月30日.
- d-03. 森山のののか・作佐部里咲・前田悠里・Le Thanh Phong・Bui Quang Duy・石川隆二・Dinh Thi Lam: 洪水に対応する浮稲の遺伝的多様の解析. 第19回東北育種研究集会(山形大学農学部), 2024年11月30日.
- d-04. 作佐部里咲・森山のののか・前田悠里・石川隆二・Matthias Wissuwa・Dinh Thi Lam: イネの環境ストレス耐性を高める側根分岐に対するオーキシンの効果. 第19回東北育種研究集会(山形大学農学部), 2024年11月30日.
- d-05. 前田悠里・作佐部里咲・森山のののか・石川隆二・Matthias Wissuwa・Dinh Thi Lam: イネの低肥料栽培に向けた野生イネ由来低リン耐性遺伝子選抜方法の開発とQTL解析. 第19回東北育種研究集会(山形大学農学部), 2024年11月30日.
- d-06. Le Thanh Phong・Dinh Thi Lam・深井英吾・石川隆二: 自然突然変異で出現した矮性短穂変異体の遺伝解析. 日本育種学会春季大会(東北大学農学部), 2024年3月21日.
- d-07. Krusenbaum, L., R. Satusabe, R. Ishikawa, M. Wissuwa, Thi-Lam Dinh: Enhanced drought resilience in rice through post-drought root emergence. 日本育種学会秋季大会(札幌コンベンションセンター), 2025年9月10日.
- d-08. 石川隆二・神邊凌士・一谷勝之・エレワラ カンカナンギ エランディ・深井英吾・福田善通・Dinh Thi Lam: IR24派生系統における活性化されたMutatorトランスポゾン. 日本育種学会秋季大会(札幌コンベンションセンター), 2025年9月10日.

柏木 明子

- a-01. Akter, S., M. Yamada, M. Nishimukai, A. Kashiwagi: Enzymatic synthesis of inositol plasmalogens from distinct lipid sources using phospholipase D from *Streptomyces antibioticus*. Biotechnology Letters, 2025年9月.
- d-01. Nishimukai, M., N. Sato, A. Kashiwagi, M. Yamada: Lymphatic Absorption of Odd-Chain Plasmalogens from Microbial Sources in the Rat Small Intestine. XVII International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods, ホーチミン, ベトナム, 2025年9月.
- d-02. Kashiwagi, A., H. Kojima, T. Ikegami: scRNA-seq Reveals Subpopulations Responsible for Distinct Carbohydrate Metabolic Pathways in *Tetrahymena thermophila* population. AROB-ISBC-SWARM 2025, B-Con PLAZA, Beppu, 2025年1月.
- d-03. Ikegami T., H. Kojima, A. Chang, A. Masumori, N. Maruyama, I. Horiguchi, M. Crosscombe, Y. Hashimoto, H. Sato, A. Kashiwagi, S. Dobata: A Community First theory for Understanding Individuality. AROB-ISBC-SWARM 2025, B-Con PLAZA, Beppu, 2025年1月.
- d-04. Akter, S., M. Hasegawa, R. Yamaguchi, A., M. Yamada Nishimukai, A. Kashiwagi: Synthesis of inositol-type plasmalogen using *Streptomyces antibioticus* derived phospholipase D and bacterial plasmalogen. 生物工学会北日本支部大会, 岩手大学, 2024年12月.
- d-05. Kojima, H., A. Kashiwagi, T. Ikegami: Single-cell sequencing reveals the gene expression heterogeneity in a clonal population of *Tetrahymena thermophila*. IUMS2024 フィレンツェ, イタリア, 2024.10月.
- f-01. 柏木明子・葛西宏介: 抗菌活性を有するファージ尾部様タンパク質及びその利用. 特願 2025-090578, 2025年5月.

- f-02. 柏木明子・葛西宏介: 狙った菌にだけ効く抗菌タンパク質. 大学見本市2025～イノベーション・ジャパン, 東京ビッグサイト, 2025年8月.

田中 克典

- a-01. Lam, D.T., K. Tanaka, T. Kataoka, A. Takashima, A. Shibutani, R. Ishikawa: Genetic diversity on farm in Japanese paper mulberry. *Ecol. Evol.*, **15**: e70828, January, 2025.
- a-02. Imoh, O.N., G. Shigita, M. Sugiyama, T.P. Dung, K. Tanaka, M. Takahashi, K. Nishimura, Y. Monden, H. Nishida, M. Goda, M. Pitrat, K. Kato: Molecular polymorphisms of the nuclear and chloroplast genomes among African melon germplasms reveal abundant and unique genetic diversity, especially in Sudan. *Ann. Bot.*, **135**: 1329–1344, April, 2025.
- a-03. Tanaka, K., G. Shigita, T.P. Dung, P.T.P. Nhi, M. Takahashi, Y. Monden, H. Nishida, R. Ishikawa, K. Kato: Polyphyletic domestication and inter-lineage hybridization magnified genetic diversity of cultivated melon, *Cucumis melo* L. *Breed. Sci.*, **75**: 168–178, July, 2025.
- c-01. Shigita, G., K. Tanaka, K. Kato: (2025) Current and future pangenomic research in cucurbit crops. *Breed. Sci.* **75**: 34–50, February, 2025.
- d-01. 山中麻友香・佐藤奈乃佳・嶋田玄太郎・石川隆二・西田英隆・加藤謙司・田中克典: 日本のネットメロンにおける全可溶性固形物含量に関わる候補遺伝子の絞り込み. 第19回東北育種研究集会(山形大学), 2024年11月.
- d-02. 中嶋くるみ・山中麻友香・佐藤奈乃佳・嶋田玄太郎・石川隆二・西田英隆・加藤謙司・田中克典: 日本のネットメロン‘B2’の日持ち性には在来メロンから導入された染色体領域が関与していた. 第19回東北育種研究集会(山形大学), 2024年11月.
- d-03. 田中克典・中嶋くるみ・嶋田玄太郎・大熊眞歩・石川隆二・西田英隆・加藤謙司: マクワとシロウリにおける果実形質関連QTLsの推定と成立過程. 日本育種学会第147回講演会(東北大学), 2025年3月.
- d-04. 田中克典・宇田津徹朗・田崎博之・上條信彦: 水田遺構土壌を中核試料とした悉皆型の稲作史研究手法の構築に向けた学際的研究(III). 日本文化財科学会第42回大会・2025年総会(九州大学), 2025年7月.

西宮 攻

- a-01. Ura, K., S. Tsue, T. Sato, S. Hagihara, M. Satoh, I. Higuchi, H. Wang, O. Nishimiya, S. Ijiri, Y. Takagi: Identification and expression of nuclear receptor genes during nutritive phagocyte development in sea urchin *Mesocentrotus nudus* gonads. *Gen. Comp. Endocrinol.*, **366**: 114715, April, 2025.

DINH THI LAM

- a-01. Dinh, L.T., K. Tanaka, A. Takashima, A. Shibutani, R. Ishikawa: Genetic diversity on farm in Japanese paper mulberry *Ecology and Evolution* **15**: e70828, January, 2025.
- a-02. Pariasca-Tanaka, J., Y. Ueda, K. Kondo, M. Asaduzzaman Prodhon, Toavintsoa Rajonandrina, Harisoa Nicole Ranaivo, Mbolatantely Fahazavana Rakotondramanana, H. Saito, Dinh Thi Lam, Matthias Wissuwa: Genome-Wide Sequence Comparison and Development of InDel and SNP Markers to Facilitate Localized Rice Breeding. *Current Plant Biology*, 100469–100469. June, 2025.
- a-03. Lukas, K., M. Wissuwa, L.T. Dinh: Heritable variation in root emergence during post-drought recovery reveals potential links to seedling drought recovery in rice, *Current Plant Biology*, Volume 43, <https://doi.org/10.1016/j.cpb.2025.100509>. September 2025.
- a-04. Dinh, L.T., Y. Ueda, H. Saito, R. Ishikawa: A novel allele of Days to Heading 8 promotes heading, potentially widening indica rice adaptation in Japan. *The Plant Genome*, <https://doi.org/10.1002/tpg2.70141>. October, 2025.
- d-01. 森山のか・作佐部里咲・前田悠里・Le Thanh Phong・Bui Quang Du・石川隆二・Dinh Thi Lam: 洪水に対応する浮稲の遺伝的多様の解析. 第19回東北育種研究集会(山形大学農学部), 2025年11月30日.
- d-02. 作佐部里咲・森山のか・前田悠里・石川隆二・Matthias Wissuwa・Dinh Thi Lam: イネの環境ストレス耐性を高める側根分岐に対するオーキシンの効果. 第19回東北育種研究集会(山形大学農学部), 2025年11月30日.
- d-03. 前田悠里・作佐部里咲・森山のか・石川隆二・Matthias Wissuwa・Dinh Thi Lam: イネの低肥料栽培に向けた野生イネ由来低リン耐性遺伝子選抜方法の開発とQTL解析. 第19回東北育種研究集会(山形大学農学部), 2025年11月30日.
- d-04. Le Thanh Phong・Dinh Thi Lam・深井英吾・石川隆二: 自然突然変異で出現した矮性短穂変異体の遺伝解析.

日本育種学会春季大会(東北大学農学部), 2025年3月21日.

- d-05. Krusenbaum, L., R. Satusabe, R. Ishikawa, M. Wissuwa, L.T. Dinh: Enhanced drought resilience in rice through post-drought root emergence. 日本育種学会秋季大会(札幌コンベンションセンター), 2025年9月10日.
- d-06. 石川隆二・神邊凌士・一谷勝之・エレワラ カンカナンギ エランディ・深井英吾・福田善通・Dinh Thi Lam: IR24派生系統における活性化されたMutatorトランスポゾン. 日本育種学会秋季大会(札幌コンベンションセンター), 2025年9月10日.

泉 ひかり

- a-01. Izumi, H., T. Uji, K. Matsumoto, K. Nagaosa, S. Fukuda: Electroporation-Mediated Gene Delivery in *Pyropia yezoensis* (Rhodophyta) Without Cell Wall Removal. Mar. Biotechnol., **27**: 123, August, 2025.
- a-02. Izumi, H., Y. Nakai, T. Uji, K. Nagaosa, S. Fukuda, H. Mizuta, N. Saga: Isolation and characterization of a spore development mutant in *Pyropia yezoensis* (Rhodophyta) induced via insertional mutagenesis. J. Phycol., **61**: 805–819, May, 2025.
- a-03. 鈴木宏介・泉 ひかり・福田 覚: 青森県における屋外半循環式養殖システムによる大規模サーモン中間育成魚生産の実証. 水産増殖, (2025年4月受理).

【食品科学コース】

岩井 邦久

- a-01. Iwai, K., T. Norikura: Simultaneous ingestion of apple pectin enhances the absorption and antioxidant activity of quercetin in rats. Food Sci. Biotechnol., **34**: 277–285, January, 2025.
- a-02. Iwai, K., H. Fujishima, H. Wakayama: Pancreatic lipase inhibitory activity and hypolipidaemic effects of the pomace of Gamazumi (*Viburnum dilatatum*) fruit in mice with high-fat diet-induced obesity. Int. J. Food Sci. Technol., **60**: vvae046, January, 2025. <https://doi.org/10.1093/ijfood/vvae046>
- a-03. Tsuda, H., K. Iwai, N. Hayashizaki: Pseudovitamin B12 producing *Loigolactobacillus coryniformis* enhances soy milk fermentation by *Lactobacillus delbrueckii* subsp. bulgaricus. J. Sci. Food Agric., **105**: 5239–5245, June, 2025.
- a-04. 岩井邦久: ガマズミの機能性研究と, 地域共創による新しい価値の創造. FFIジャーナル, **230**: 223–234, 2025年7月.
- b-01. 岩井邦久: 第5章 食品の三次機能. カレント食べ物と健康1 改訂食品の化学と機能[第2版], 青柳康夫・津田孝範 編著, 建帛社, ISBN: 978-4-7679-0775-8, p.143–174, 2025年1月.
- b-02. 岩井邦久: 第5章 植物性食品の栄養と加工. C豆類, 種実類 F藻類. 健康・栄養科学シリーズ 食品の加工(改訂第2版), 太田英明・白土英樹・古庄律 編, 南江堂, ISBN: 978-4-524-22873-7, p.146–153, p.159–162, 2025年2月.
- d-01. 王 匯子・鮎田陵佑・岩井邦久: りんごのプロシアニジンを増加させたドライアップルの調製に関する研究. 日本食品科学工学会東北支部令和6年度大会(伝国の杜 置賜文化ホール), 2024年11月.
- d-02. 相澤省太・林田大志・岩井邦久: りんご紅の夢の脂質低下作用に関する研究. 第29回日本フードファクター学会学術総会(つくば国際会議場), 2024年12月.
- f-01. 岩井邦久: 県産食材から健康に役立つ食品を作る・機能性食品の開発につながる研究とは. オープンキャンパス・特別企画模擬講義(弘前大学), 2025年8月.
- f-02. 岩井邦久: 分析化学と食品開発—食品分析が付加価値を高める—. アグリカレッジ2025(弘前大学), 2025年8月.

佐藤 之紀

- a-01. Sato, Y.: Reproducibility of the visual palatability of the crumb of bread and a novel sensory evaluation method using images presented on a screen. Exploration of Foods and Foodomics, **3**: 101080. April, 2025. <https://doi.org/10.37349/eff.2025.101080>
- a-02. Sato, Y.: Determination of hydration parameter h for sugars with a large number of equatorial OH groups and development of a simple method for measuring h using a vibration viscometer. Food Science and Technology Research, **31**: 313–319, March, 2025. <https://doi.org/10.3136/fstr.FSTR-D-24-00247>
- a-03. Sato, Y.: Structural Recoverability of White Breads Based on the “Cohesiveness” Value From Texture Profile Analysis and the “Compression Force Value” From the American Association of Cereal Chemists (74–09). Journal of Texture Studies, **56**: e70028, May, 2025. <https://doi.org/10.1111/jtx.70028>

- a-04. Andi Rahmayanti Ramli, Y. Sato, K. Nishinari, K. Tsumura, T. Nagano: Food Research International, **230**: 117151, July, 2025. <https://doi.org/10.1016/j.foodres.2025.117151>
- d-01. 佐藤之紀：異なる光源で照明を変えた食パンクラムの見た目のおいしさと見た目のかたさの関係. 日本調理科学会2025年度大会(東海学園大学), 2025年8月.

中島 晶

- a-01. Liu W, Zhang J, Li Y, A. Nakajima, Lee D, Xu J, Guo Y: Structure, anti-cancer properties, and potential mechanism of a biological active polysaccharide from *Platycodon grandiflorum*. Int J Biol Macromol. **281**: 136153, November, 2024.
- d-01. 井上唯菜・千葉 俊・前多隼人・中島 晶：RNA-seq解析を用いた有機リン系難燃剤である Isopropylphenyl phosphateによる情動行動異常発現メカニズムの検討. 第52回日本毒性学会学術年会(沖縄), 2025年7月.
- d-02. 井上唯菜・千葉 俊・前多隼人・中島 晶：有機リン系難燃剤である Isopropylphenyl phosphateの情動行動への影響の解析. 第26回応用薬理シンポジウム(東京), 2025年9月.

君塚 道史

- a-01. Kimizuka, N.: Ice-crystal formation during cooling and rewarming of concentrated sucrose solutions. Cryobiology, **121**: 10531, Aug, 2025.
- d-01. 田中 優・君塚道史：スクロース水溶液における凍結濃縮過程と再結晶化. 日本食品工学会第26回(2025年度)年次大会(つくば国際会議場), 2025年8月.

津田 治敏

- a-01. Tsuda, H., K. Iwai, N. Hayashizaki: Pseudovitamin B₁₂ producing *Loigolactobacillus coryniformis* enhances soy milk fermentation by *Lactobacillus delbrueckii* subsp. *bulgaricus*. J. Sci. Food and Agric., **105**: 5239–5245, March, 2025.
- d-01. 菊池天地・津田治敏：カマンベールチーズ中のロイテリン定量法の検討. 日本酪農科学シンポジウム2025(日本大学), 2025年9月.
- d-02. 高橋望美・津田治敏：短期熟成ゴーダチーズのナッツ臭増強. 日本酪農科学シンポジウム2025(日本大学), 2025年9月.
- d-03. 山中紹瑞・津田治敏：寒立馬由来乳酸菌の発酵乳製品用スターター利用. 日本酪農科学シンポジウム2025(日本大学), 2025年9月.

西塚 誠

- a-01. Wada N., S. Sakai, Y. Inoue, M. Nishizuka: Silencing of fibronectin type III domain containing protein 3A (FNDC3A) attenuates epithelial-to-mesenchymal transition (EMT), cancer invasion, and stemness in triple-negative breast cancer (TNBC). BBA mol. cell res., **1872**: 119935, April, 2025.
- a-02. Nishizuka M., K. Nakajima, C. Odagiri, N. Wada, S. Sakai: RASL10A, a member of the RAS subfamily of small GTPases, suppresses the EMT and invasion of human lung adenocarcinoma A549 cells. Biosci. Biotechnol. Biochem., **89**: 945–953, June, 2025.
- d-01. 和田七華・酒井 聡・西塚 誠：FNDC3A発現抑制はTNBCの悪性を阻害する. 第63回日本薬学会東北支部大会(青森大学), 2024年10月.
- d-02. 西塚 誠：ニンニク由来シクロアリンの新たな生理機能 ～がん細胞の浸潤抑制効果を中心に～. 協同組合青森県黒にんにく協会勉強会(八戸プラザホテル), 2024年12月.
- d-03. 和田七華・酒井 聡・井上靖道・西塚 誠：TNBCの新規悪性化因子FNDC3Aの機能解析. 日本薬学会第145年会(福岡), 2025年3月.
- d-04. 加藤 梓・坂元君年・西塚 誠・山元涼子：代謝機能障害関連脂肪性肝疾患発症時のビタミンB6代謝の解析. 第79回日本栄養・食糧学会大会(名古屋大学), 2025年5月.
- d-05. 和田七華・酒井 聡・井上靖道・西塚 誠：FNDC3AはYAP/TAZを介して乳がん細胞の悪性を促進する. 第34回日本がん転移学会学術集会・総会(淡路島), 2025年6月.
- d-06. 七島直樹・前多隼人・中島 晶・西塚 誠・鳴海 剛・市田淳治・伊徳 行：リンゴ搾汁残渣抽出物がヒト皮膚線維芽細胞に与える影響. 日本食品科学工学会第72回大会(日本大学), 2025年8月.

- d-07. 西塚 誠：ニンニク由来成分の新たな生理機能～がん細胞の浸潤抑制効果を中心に～. 第9回世界黒にんにくサミット (田舎館村), 2025年9月.

樋口 智之

- a-01. Watanabe, R., M. Honda, T. Higuchi, R. Sugahara: Effects of dietary fatty acids and carotenoids on the body composition of the brown marmorated stink bug. J. Insect Food Feed, Advance article, Sep, 2025.
- d-01. 樋口智之：未・低利用資源に由来する脂質の特性と食品利用の展望～昆虫と水産物について～. 日本脂質栄養学会第34回大会 (一橋講堂), 2025年9月.

前多 隼人

- a-01. Kanehara, R., Y. Oinuma, H. Maeda, K. Tanaka, M. Hashimoto: Triantspirols A-C and *Paraphaeolactone* Cs from *Paraphaeosphaeria* sp. KT4192: Sensitivity of CP3 in Distinguishing Close NMR Signals. Journal of natural products, **87**(10): 2487-2498, October, 2024.
- a-02. Kawaguchi, S., D. Chinda, S. Ota, A. Tonouchi, H. Maeda, K. Miura, G. Soma, H. Hiraga, K. Ueno, T. Nioka, M. Tachizaki, K. Seya, T. Imaizumi, S. Fukuda, H. Sakuraba: Heat-killed *Lactococcus lactis* subsp. *lactis* L8 ameliorates dextran sulfate sodium-induced colitis in mice. Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition, **76**(3): 264-270, December, 2024.
- a-03. Akter, R., AKMA. Shah, H. Maeda, MA. Hossain, CH. Yuan, MG. Rasul: Combined Effects of Vacuum Packaging and Moringa leaf Powder on the Quality and Storability of Nile Tilapia (*Oreochromis niloticus*) Pickle During Storage. Journal of microbiology, biotechnology and food sciences, **14**(5): e11792, February, 2025.
- a-04. Watabe, S., YQ. Hu, H. Maeda, CH. Yuan: Editorial: Transdisciplinary communication for sustainable food systems. Front. Sustain. Food Syst., **9**: February, 2025.
- a-05. Kanehira, R., H. Abe, H. Ito, R. Kanehara, H. Maeda, K. Tanaka, M. Hashimoto: Isolation of 6,7-*iso*-Felinone A: A Configurational Reinvestigation of Related Fungal Metabolites. Journal of natural products, **88**(4), March, 2025.
- a-06. Kirisawa, K., S. Sato, A. Minami, H. Maeda, K. Tanaka, M. Hashimoto: Isolation and Identification of Xanthone, Benzofuran, and Spirolactone Derivatives from *Dinemasporium parastrigosum* KT4144 and Their Plausible Biosynthetic Pathways. Journal of natural products, **88**(6): 1453-1462, June, 2025.
- a-07. Horio, K., H. Maeda, K. Horie, N. Nanashima, K. Nihei: Total synthesis of quasi-symmetric dihydrofuran lignans (–)-ribesin A and B isolated from *Ribes nigrum* leaves. Tetrahedron, **181**: 134675, August, 2025.
- b-01. 前多隼人：フコキサンチン及びパプリカカロテノイドによるメタボリックシンドローム予防作用：ビタミン. **98**(9): 421-426, 2024年9月.
- c-01. 前多隼人：オレオサイエンス第24巻第10号 油脂関連情報 Inform Vol.35, No.2 (2024). 日本油化学会: 459, 2024年10月.
- c-02. 前多隼人：オレオサイエンス第24巻第11号 油脂関連情報 Inform Vol.35, No.3 (2024). 日本油化学会: 497, 2024年11月.
- c-03. 前多隼人：オレオサイエンス第24巻第12号 油脂関連情報 Inform Vol.35, No.4 (2024). 日本油化学会: 559, 2024年12月.
- c-04. 前多隼人・太田龍之介・高橋春南・山口直矢・小林 聡：黒ダイズ品種「いわいくろ」味噌のポリフェノール及びイソフラボンの変化. アグリバイオ, **8**(13): 67-73, 2024年12月.
- c-05. 前多隼人：オレオサイエンス第25巻第1号 油脂関連情報 Inform Vol.35, No.5(2024). 日本油化学会: 33, 2025年1月.
- c-06. 前多隼人：オレオサイエンス第25巻第2号 油脂関連情報 Inform Vol.35, No.6(2024). 日本油化学会: 75, 2025年2月.
- c-07. 前多隼人：オレオサイエンス第25巻第4号 油脂関連情報 Inform Vol.35, No.8 (2024). 日本油化学会: 170, 2025年4月.
- c-08. 前多隼人：オレオサイエンス第25巻第5号 油脂関連情報 Inform Vol.35, No.9 (2024). 日本油化学会: 216, 2025年5月.
- c-09. 前多隼人：オレオサイエンス第25巻第6号 油脂関連情報 Inform Vol.35, No.10 (2024). 日本油化学会: 270, 2025年6月.
- c-10. 前多隼人・高橋美久・前田智雄：パプリカやトウガラシの赤色色素の機能性. フードケミカル, **41**(6): 26-29, 2025年6月.
- c-11. 前多隼人：オレオサイエンス第25巻第8号 油脂関連情報 Inform Vol.36, No.1 (2025). 日本油化学会: 358, 2025

年8月.

- c-12. 前多隼人：オレオサイエンス第25巻第9号 油脂関連情報 Inform Vol.36, No.2 (2025). 日本油化学会: 420, 2025年9月.
- d-01. 米沢亜美・海老名俊・前多隼人：リンゴ由来酵母粉末摂取による高脂肪食投与マウスの肝臓脂質蓄積抑制作用. 公益社団法人 日本食品科学工学会 東北支部令和6年度 支部大会 (米沢市 伝国の杜 置賜文化ホール). 2024年11月.
- d-02. 前多隼人：疾患の予防, 改善につながる食品素材の研究. 公益社団法人 日本食品科学工学会 東北支部令和6年度 支部大会 (米沢市 伝国の杜 置賜文化ホール), 2024年11月.
- d-03. 梅原里奈・小林 聡・佐藤 圭・五十嵐秀成・高橋春南・山口直矢・前多隼人：高タンパク質含有のダイズ変異体における代謝物の網羅的分析. 公益社団法人日本農芸化学会 2025年度大会 (札幌コンベンションセンター), 2025年3月.
- d-04. 時崎太一朗・田中和明・前多隼人・橋本 勝：*Rousoella* sp. KT4147の産生する新規スピロシナフタレン化合物. 公益社団法人日本農芸化学会 2025年度大会 (札幌コンベンションセンター), 2025年3月.
- d-05. 兼平 類・金原龍飛・阿部秀樹・伊藤久央・前多隼人・田中和明・橋本 勝：6,7-*iso*-felinone Aの単離・関連化合物の再調査. 公益社団法人日本農芸化学会 2025年度大会 (札幌コンベンションセンター), 2025年3月.
- d-06. 桐澤康晟・田中和明・前多隼人・橋本 勝：*Dinemasporium parastrigosum* KT4144由来の新規 xanthone 類の構造解析研究. 公益社団法人日本農芸化学会 2025年度大会 (札幌コンベンションセンター), 2025年3月.
- d-07. 一戸唯華・奥野海良人・前多隼人：白神の森乳酸菌 L8 菌株が糖尿病肥満マウスの炎症およびアミノ酸代謝に与える影響. 第24回 青森糖質研究会 (弘前大学), 2025年5月.
- d-08. 一戸唯華・奥野海良人・前多隼人：白神の森乳酸菌 L8 菌株投与による糖尿病肥満モデルマウスの慢性炎症抑制作用. 第12回 保健科学研究会 (柴田学園大学 多目的ホール), 2025年9月.
- f-01. 前多隼人：ゴボウ, ビーツの健康機能性研究と加工製品の開発. 弘前食品開発振興会, 弘前商工会議所 食品・農産物部会 合同勉強会 (弘前市 弘前商工会議所), 2024年10月.
- f-02. 前多隼人：弘前大学食育講演会 ～青森県を健やかに～ 弘前大学食育講演会. 健康・長寿フェス in イオンモール下田 (おいらせ町 イオンモール下田), 2024年10月.
- f-03. 前多隼人：イマドキこどものサイエンス・チャレンジラリー わくわく五感センサで未来をつくろう!. (八戸市 マリエント), 2024年12月.
- f-04. 前多隼人：令和6年度ひろさき親子体験教室「たのしいたべものーおいしくたのしく健康になるたべものは?ー」. (弘前市 総合学習センター), 2024年12月.
- f-05. 前多隼人：「中泊健康茶」完成報告会. (中泊町 中泊町役場), 2024年2月.
- f-06. 前多隼人：2025 柴田学園大学公開講座. 地域の特長ある食材で, 地域を元気に! 「青森県の在来野菜品種で元気に健康に!」. (弘前市民文化交流館ホール), 2025年5月.
- f-07. 前多隼人：青森県三戸町産「つくね芋」の健康機能性成分に関する研究成果報告会. (三戸町役場 4F 大会議室), 2025年6月.
- f-08. 前多隼人：むつサテライトキャンパス食育健康講座. 「高野豆腐」. (むつ市 むつ来さまい館), 2025年8月.

山元 涼子

- b-01. 山元涼子：第7章 食品添加物 D 主な食品添加物の種類と用途. 第8章 食品衛生管理 災害時の食品衛生. 食品の安全改訂第3版, 南江堂, ISBN: 978-4-524-20418-2, p.209-221, 243, 2025年3月.
- d-01. 加藤 梓・坂元君年・山元涼子：MASLDモデルマウスの血中および肝臓中のビタミンB₆の分析. 令和6年度 日本栄養・食糧学会東北支部 (第58回大会)・北海道支部 (第54回大会) 合同支部大会 (北海道大学), 2024年12月.
- d-02. 加藤 梓・坂元君年・西塚 誠・山元涼子：代謝機能障害関連脂肪性肝疾患発症時のビタミンB₆代謝の解析. 第79回日本栄養・食糧学会大会 (名古屋大学), 2025年5月.

【食料生産環境コース】

田中 和明

- a-01. Kanehara, R., Y. Oinuma, H. Maeda, K. Tanaka, M. Hashimoto: Triantspirols A-C and paraphaeolactone Cs from *Paraphaeosphaeria* sp. KT4192: sensitivity of CP3 in distinguishing close NMR signals. Journal of Natural Products **87**: 2487-2498, October, 2024.

- a-02. Wijayawardene, N.N., K.D. Hyde, K.V. Mikhailov et al. (K. Tanaka 91 番目/109 名中): Classes and phyla of the kingdom Fungi. *Fungal Diversity* **128**: 1-165, October, 2024.
- a-03. Hyde, K.D., M.T. Noorabadi, V. Thiyagaraja et al. (K. Tanaka 440 番目/529 名中): The 2024 Outline of Fungi and fungus-like taxa. *Mycosphere* **15**: 5146-6239, November, 2024.
- a-04. Lu, L.T., R. Sugita, M. Sato, K. Tanaka, R. Kirschner: *Spagazzinia cryptica* sp. nov. (*Didymosphaeriaceae*) from the western Pacific monsoon region. *Phytotaxa* **675**: 167-176, December, 2024.
- a-05. Kanehira, R., H. Abe, H. Ito, R. Kanehara, H. Maeda, K. Tanaka, M. Hashimoto: Isolation of 6,7-*iso*-Felinone A: A configurational reinvestigation of related fungal metabolites. *Journal of Natural Products* **88**: 1085-1090, March, 2025.
- a-06. Murakami, A., R. Kanehara, K. Tanaka, M. Hashimoto: Gregarithecinol, a Trichodiene/Bazzanene derivative from *Gregarithecium curvisporum* KT4079: DFT-supported stereochemical elucidation of units linked by a rotatable bond. *Tetrahedron Letters* **161**: 155568, March, 2025.
- a-07. Kirisawa, K., S. Sato, A. Minami, H. Maeda, K. Tanaka, M. Hashimoto: Isolation and identification of Xanthone, Benzofuran, and Spirolactone derivatives from *Dinemasporium parastrigosum* KT4144 and their plausible biosynthetic pathways. *Journal of Natural Products* **88**: 1453-1462, May, 2025.
- a-08. Yoshioka, R., M. Matsumura, K. Tanaka: *Depressiostiolaceae* fam. nov. (*Pleosporales*, *Dothideomycetes*) for reclassification of two *Massaria* species. *Mycological Progress* **24**: 35, June, 2025.
- d-01. 直井 崇・橋本梨乃・田中和明・佐野輝男: *Botryosphaeria* 属菌から検出された新規ウイロイド様環状 RNA の性状. 令和 7 年度日本植物病理学会大会 (香川県, サポート高松), 2025 年 3 月.
- f-01. 文屋慎太郎・田中和明: 青森県で発見された *Pestalotiopsis chamaeropsis* (子のう菌門・フンタマカビ綱) の記録. 青森自然誌研究, **30**: 75-77, 2025 年 3 月.

松山 信彦

- d-01. 青山正和・高味充日兎・矢島博文・前多隼人・松山信彦: 竹堆肥由来フルボ酸の抗酸化成分の単離と同定. 第 40 回日本腐植物質学会講演会 (京都工芸繊維大学), 2024 年 11 月 30 日.
- d-02. 松山信彦・上森塊斗・藤田一輝: 下層土の部分改良がダイズの生育・収量に与える影響. 日本土壤肥料学会東北支部大会 (福島開催), 2025 年 7 月 9 日.

金児 雄

- a-01. Fujii, T., M. Hino, T. Fujimoto, K. Kakino, Y. Kaneko, H. Abe, J.M. Lee, T. Kusakabe, T. Shimada: Peroxiredoxin 6 is essential for the posttranslational activation of xanthine dehydrogenase in the uric acid synthesis of *Bombyx mori*. *Insect Biochem Mol Biol.*, **178**: 104264, January, 2025.
- a-02. Kim Jungu・金児 雄・佐原 健: 錦秋×鍾和において 5 齢幼虫脱皮個体を得るアラテクトミー方法. 東北蚕糸・昆虫利用研究報告, **49**: 13-17, 2024 年 12 月.
- d-01. 小杉海斗・藤井 告・藤本章晃・伴野 豊・金児 雄: カイコ終齢致死変異体における前胸腺機能不全機構の解析. 令和 7 度蚕糸・昆虫機能利用学術講演会 (京都工芸繊維大学), 2025 年 3 月.
- d-02. Kim Jungu・金児 雄・佐原 健: アラタ体除去がカイコ無核精子形成に及ぼす影響. 令和 7 度蚕糸・昆虫機能利用学術講演会 (京都工芸繊維大学), 2025 年 3 月.

管原 亮平

- a-01. Hirota, K., R. Watanabe, R. Sugahara: The effect of humidity and the role of visual cues during feeding on green/brown color polyphenism in *Locusta migratoria*. *Arch. Insect Biochem. Physiol.*, **118**: e70044, February, 2025.
- d-01. Wada, N., K. Hirota, F. Ichinohe, R. Sugahara: Optimization of ovarian replacement techniques in *Locusta migratoria*: toward establishing a model for studying the hormonal control of egg diapause. 8th APSERI 2025 (Kyushu University). September, 2025.
- d-02. 廣田溪琉・管原亮平: 沖縄産ハラビロカマキリにおける生活史二型化仮説の検証. 日本昆虫学会第 85 回大会 (東京農業大学), 2025 年 9 月.
- d-03. Hirota, K., R. Sugahara: Environmental factors influencing green-brown polymorphism in the migratory locust (*Locusta migratoria*). The 11th EAFAS international congress (The University of Tokyo). July, 2025.

- d-04. 廣田溪琉・管原亮平：トノサマバタ緑色選抜集団にみられたオス特異的な形態異常. 第69回日本応用動物昆虫学会(幕張メッセ), 2025年3月.
- d-05. Sugahara, R., S. Ito, N. Yamamoto, K. Hirota : Rearing insects for animal feed using by-products from a sugar factory. The 7th Bilateral Workshop on Radiation Research and its Related Issues 2024 (Bangkok). December, 2024.

直井 崇

- d-01. Kuya, N., H. Katsuyama, T. Naoi, M. Takayama, E. Goto, SW. Kang, H. Ezura: Development of dwarf, high-functionality, good-tasting tomato varieties through genome editing for cultivation on the lunar farm. Plant & Animal Genome Conference 2025 (PAG32), January, 2025.
- d-02. 直井 崇・橋本梨乃・田中和明・佐野輝男:*Botryosphaeria*属菌から検出された新規ウイロイド様環状RNAの性状. 令和7年度 日本植物病理学会大会, 2025年3月.
- d-03. Cao XianDong・直井 崇・本多和茂・李 明・前田智雄: VIGS法を用いた弘前在来トウガラシにおけるCcs遺伝子の果実着色に関する機能解析. 令和7年度 園芸学会 東北支部大会, 2025年8月.
- d-04. 直井 崇・橋本梨乃・佐野輝男: 新規coleviroid (Coleus blumei viroid 8; 仮称)の検出と同定. 令和7年度 日本植物病理学会 東北支部会, 2025年9月.

藤田 一輝

- c-01. 藤田一輝: 北海道の野菜づくり—基本技術と品目別栽培ポイント—. 第2章 土壌と肥料-土壌のpHと電気伝導度(EC). ニューカントリー2024年秋季臨時増刊号 pp.46-47, 2024年11月.
- d-01. 松山信彦・上森海斗・藤田一輝: 下層土の部分的改良がダイズの生育・収量に及ぼす影響. 日本土壌肥料学会東北支部大会(福島大会), 2025年7月.
- d-02. 藤田一輝・神通川優里・吉久詩音・松村健太郎・國頭 恭: 土壌酵素活性と微生物バイオマスの化学量論による植物の養分状態の評価. 日本土壌肥料学会2025年度新潟大会(新潟大学), 2025年9月.

【国際園芸農学科】

【園芸農学コース】

張 樹槐

- d-01. 伊藤篤史, 張 樹槐: メロン礫耕栽培における高品質化技術の確立 —自作IoTセンサーによる土壌水分可視化の可能性及び後期施肥管理の違いが果肉品質に与える影響—. 令和7年度(2025年度)農業食料工学会東北支部研究発表会講演要旨集, 005, 宮城大学太白キャンパス, 2025年8月.
- d-02. 伊藤篤史, 張 樹槐: イチゴ栽培管理の暗黙知解明に向けたデータ取得と解析 —熟練生産者のかん水判断基準の可視化ついて—. 第83回農業食料工学会年次大会講演要旨集, 202, 三重大学, 2025年9月.
- d-03. 高橋知秀, 叶 旭君, 張 樹槐: IoT 分光センサーを活用したトマト品質評価のための低コスト非破壊測定装置の開発. 第83回農業食料工学会年次大会講演要旨集, 213, 三重大学, 2025年9月.
- d-04. 叶 旭君, 山口維尚, 張 樹槐: 分光測定装置の種類が赤肉リンゴ「長果34(キルトピンク)」の内部着色度推定精度に及ぼす影響. 第83回農業食料工学会年次大会講演要旨集, 217, 三重大学, 2025年9月.
- f-01. 張 樹槐: リンゴ園におけるスマート農業の可能性について. 公開講座「リンゴを科学する」(板柳町), 2025年1月.

前田 智雄

- d-01. Cao XianDong・直井 崇・本多和茂・李 明・前田智雄: VIGS法を用いた弘前在来トウガラシにおけるCcs遺伝子の果実着色に関する機能解析. 園芸学会東北支部大会令和7年度大会(山形テルサ), 園学要旨, 令7東北支部: 9-10, 2025年8月.
- d-02. 古戸 毅・曹 賢棟・李 明・本多和茂・前田智雄: 野菜に含まれるアントシアニン量と栽培土壌に関する研究. 園芸学会東北支部会令和7年度大会(山形テルサ), 園学要旨, 令7東北支部: 11-12, 2025年8月.
- d-03. 李 明・曹 賢棟・本多和茂・前田智雄: 四川キュウリの特性に関する研究. 園芸学会東北支部会令和7年度大会(山形テルサ), 園学要旨, 令7東北支部: 29-30, 2025年8月.

松崎 正敏

- a-01. 木村友美・房 家琛・松崎正敏: 母めん羊の初乳中ホルモン濃度と産子の増体との関連. 東北畜産学会報, **75**(1): 1-9, 2025年6月.
- d-01. ウニントア・松崎正敏: 性成熟前育成期におけるルーメンバイパスグルコースあるいはアマニ油脂肪酸カルシウム給与による肉質向上の可能性の検討. 日本産肉研究会第35回学術集会(奥州市牛の博物館), 2025年5月.
- d-02. 松崎正敏: 【学術賞受賞者講演】代謝的プログラミング現象を利用した家畜の生産性向上技術に関する研究. 第74回東北畜産学会秋田大会(秋田県庁第2庁舎), 2025年8月.
- d-03. 菅原孝介・佐藤一平・松崎正敏: リンゴジュース粕混合発酵飼料給与が羊肉の香り成分に与える影響について. 日本畜産学会133回大会(岐阜大学), 2025年9月.
- f-01. 松崎正敏: 東北畜産学会学術賞第66号, 代謝的プログラミング現象を利用した家畜の生産性向上技術に関する研究. 東北畜産学会, 2025年8月.

叶 旭君

- a-01. Ueda, S., X. Ye: A smartphone-based method for assessing tomato nutrient status through trichome density measurement. *IEEE Access*, **12**: 171304–171327, November, 2024.
- d-01. 高橋知秀・叶 旭君・張 樹槐: IoT分光センサーを活用したトマト品質評価のための低コスト非破壊測定装置の開発. 第83回農業食料工学会年次大会講演要旨集, 213, 三重大学, 2025年9月.
- d-02. 叶 旭君・山口維尚・張 樹槐: 分光測定装置の種類が赤肉リンゴ「長果34(キルトピンク)」の内部着色度推定精度に及ぼす影響. 第83回農業食料工学会年次大会講演要旨集, 217, 三重大学, 2025年9月.

川端 二功

- a-01. Koyama, K., F. Kawabata: Expression of olfactory sense-related genes in chicken olfactory epithelium. *The Journal of Poultry Science*, **62**: 2025019, July, 2025.
- a-02. Kawabata, F., R. Fukai, T. Miyagi, Y. Kawabata: Intragastric administration of cuminaldehyde, a natural

TRPA1 agonist, enhanced carbohydrate oxidation and reduced body fat accumulation in mice, *Biomedical Research (Tokyo)*, **46**: 51–59, April, 2025.

- a-03. Kawabata, F., M. Sakai, H. Murasawa, Y. Komine, K. Mukai, Y. Kawabata: Taste preference and metabolic rate of trehalose in chickens. *The Journal of Poultry Science*, **62**: 2025005, January, 2025.
- b-01. 川端二功：体性感覚. 日本家禽学会：家禽の辞典 初版, 86–87, 朝倉書店, 東京, 2025年5月.
- b-02. 川端二功：その他の副生物. 日本家禽学会：家禽の辞典 初版, 224–225, 朝倉書店, 東京, 2025年5月.
- b-03. 川端二功：シチメンチョウの形態学的特徴. 日本家禽学会：家禽の辞典 初版, 346–347, 朝倉書店, 東京, 2025年5月.
- b-04. 松崎正敏・津田治敏・房 家琛・川端二功：東北畜産学会報特集 東北地方の畜産関連組織の紹介 国立大学法人弘前大学農学生命科学部. *東北畜産学会報*, **74**: 20–24, 2025年2月.
- b-05. 川端二功：ニワトリを用いた味覚の研究. *ファルマシア*, **61**: 9–13, 2025年1月.
- d-01. 篠田真美・山添淳一・川端由子・高井信吾・實松敬介・川端二功・重村憲徳：岩木健康増進プロジェクトにおける軽度認知症疑いのある高齢者の味覚閾値の検討. 第31回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会（パシフィコ横浜）, 2025年9月.
- d-02. 中村優太・小山和士・川端二功：ニワトリは苦味の不味さを学習し想起する. 日本畜産学会第133回大会（岐阜大学）, 2025年9月.
- d-03. 坂本照英・小山和士・川端二功：ニワトリは揮発性アミンの匂いを認識し忌避する. 日本畜産学会第133回大会（岐阜大学）, 2025年9月.
- d-04. 川瀬ひかり・小山和士・川端二功：嗅覚嫌悪学習試験によるニワトリが感知する香気成分の同定. 日本畜産学会第133回大会（岐阜大学）, 2025年9月.
- d-05. 小山和士・坂本照英・川端二功：ニワトリの行動を調節する3種の香気成分. 日本畜産学会第133回大会（岐阜大学）, 2025年9月.
- d-06. 高井信吾・川端由子・實松敬介・川端二功・岩崎有作・重村憲徳：オーファン受容体GPRC5Cはマウスのグルコース代謝調節に関与する. 日本味と匂学会第59回大会（大阪大学）, 2025年9月.
- d-07. 山内一崇・出石りさ・清水目奈美・工藤玲子・小濱佑介・宮崎明子・田口大夢・平尾宜司・川端二功・川端由子・高井信吾・實松敬介・山添淳一・重村憲徳：一般地域住民の味覚機能についての検討—岩木健康増進プロジェクト2022の結果から—. 日本味と匂学会第59回大会（大阪大学）, 2025年9月.
- d-08. 川端二功・川端由子：摂餌または反芻胃由来の酸物質に対するウシ酸味受容体Otopetrin1の応答. 日本味と匂学会第59回大会（大阪大学）, 2025年9月.
- d-09. 篠田真美・山添淳一・川端由子・宮崎明子・高井信吾・山内一崇・川端二功・松原 篤・重村憲徳：一般地域住民を対象とした軽度認知症疑いのある高齢者の味覚閾値の検討 ～2022年度岩木健康増進プロジェクト～. 日本老年歯科医学会第36回学術大会（幕張メッセ）, 2025年6月.
- d-10. 川端二功・宮城大芽・鹿島康浩・小山和士・浅野年紀・松川泰治：ロイシン担持ナノ化ホエイタンパク質の単回摂取がヒトのエネルギー代謝に与える影響. 第79回 日本栄養・食糧学会大会（名古屋大学）, 2025年5月.
- d-11. 小山和士・川端二功：塩化ナトリウムはニワトリに報酬をもたらす. 日本家禽学会2025年度春季大会（オンライン）, 2025年3月.
- d-12. Kawabata, F., K. Koyama: Sugars transported by SGLT1 induced rewarding effects in chickens. The 21st International Symposium on Molecular and Neural mechanisms of Taste and Olfactory Perception（岡山大学）, 2025年3月.
- d-13. 富樫源太・小山和士・宮城大芽・川端二功：週齢によりスパイス成分に対するマウスの口腔内感受性は変化する. 第38回日本香辛料研究会学術講演会（弘前大学）, 2024年11月.

小早川 紘樹

- a-01. 永田彩夏・小早川紘樹：2023年夏季の異常高温が冷涼地域の玄米外観品質に及ぼした影響—弘前大学内水田産玄米を例として—. *美味技術学会誌*, **24**: 21–27, 2025年3月.
- d-01. 永田彩夏・登島早紀・小早川紘樹：白未熟粒の発生および発芽前のGABA含量が発芽玄米のGABA含量に及ぼす影響. 日本作物学会第259回講演会（日本大学）, 2025年3月.
- d-02. 小早川紘樹・永田彩夏・福士諒太郎・佐藤拓郎・平井太郎：BLOF理論で育成した水稻の生育および収量に関する解析—慣行栽培および通常有機栽培との比較—. 日本作物学会第259回講演会（日本大学）, 2025年3月.
- d-03. 小早川紘樹・上遠野菜：水稻品種「つがるロマン」の高温条件下での白未熟粒の発生に及ぼす亜リン酸肥料の影響.

日本作物学会第259回講演会（日本大学），2025年3月。

- d-04. 永田彩夏・福士諒太郎・佐藤拓郎・平井太郎・小早川紘樹：BLOF理論で育成した水稲の品質に関する解析～慣行栽培および通常有機栽培との比較～. 日本作物学会第259回講演会（日本大学），2025年3月。
- d-05. 登島早紀・小早川紘樹・藤田知道・佐藤早希・林田大志・田中紀充：赤果肉リング実生系統における環境ストレス耐性およびその品質評価. 園芸学会令和7年度秋季大会（高知大学），2025年9月。
- d-06. 永田彩夏・登島早紀・小早川紘樹：グルタミン酸およびタンパク質が発芽玄米のGABA含量に及ぼす影響. 日本作物学会第260回講演会（新潟大学），2025年9月。
- d-07. 福士諒太郎・伊藤 梓・小早川紘樹：開花期における湛水深がソバの光合成および生育に及ぼす影響. 日本作物学会第260回講演会（新潟大学），2025年9月。
- d-08. 牧由理奈・姜 東鎮・松山信彦・小早川紘樹：収穫後日数およびケイ素がセルロース資源としての稲わら品質に及ぼす影響. 日本作物学会第260回講演会（新潟大学），2025年9月。
- d-09. 福士諒太郎・永田彩夏・佐藤拓郎・平井太郎・小早川紘樹：BLOF理論実践圃場における土壌の化学性および水稲の炭素・窒素含有率. 日本作物学会第260回講演会（新潟大学），2025年9月。

田中 紀充

- f-01. Tanaka, N.: Fruit growth in relation to temperature. Bilateral open workshop between Japan and New Zealand on apple tree ecophysiology, breeding and genetics. Iwate University. 2024.10.30.

本多 和茂

- d-01. 秦 奇・菅原孝太郎・本多和茂・立澤文見・岩科 司・水野貴行：オオヤマオダマキおよびミヤマオダマキ（キンポウゲ科）の花のアントシアニン. 園芸学会令和7年度春季大会 園学研24別1: 336, 2025年3月。
- d-02. 秦 奇・菅原孝太郎・中根孝久・本多和茂・立澤文見・岩科 司・水野貴行：ミヤマオダマキの花に含まれる色素成分と青紫色の発現機構. 園芸学会令和7年度秋季大会 園学研24別2: 226, 2025年9月。
- d-03. 青沼彩葉・立澤文見・渡邊 学・橋場真紀子・海老名雄次・丸居 和・本多和茂：弘前公園のサクラにおける早期開花予測にむけたマルバマンサクの開花に関する気象要因の探索と開花予測の試み. 園芸学会令和7年度秋季大会 園学研24別2: 448, 2025年9月。
- f-01. 本多和茂：NHK Eテレ子ども番組「The Wakey Show」植物の分類について紹介する歌「Plants Song」の歌詞監修. 2025年4月。
- f-02. 本多和茂：NHK Eテレ子ども番組「The Wakey Show」Wakeyのとびら「カタクリの回」のコーナー監修. 2025年4月。

登島 早紀

- d-01. 登島早紀・江頭晃大・八幡昌紀・平野智也・國武久登：奄美大島と加計呂麻島に自生するキイチゴ野生種ナワシロイチゴの倍数体評価およびその遺伝解析. 園芸学会令和6年度秋季大会（琉球大学），2024年11月。
- d-02. 橋村宗一郎・登島早紀・平野智也・國武久登：葉緑体及び核DNAの塩基配列に基づく西南諸島に分布するナワシロイチゴの系統分類. 園芸学会令和6年度秋季大会（琉球大学），2024年11月。
- d-03. 登島早紀・小早川紘樹・藤田知道・佐藤早希・林田大志・田中紀充：赤果肉リング実生系統における環境ストレス耐性およびその品質評価. 園芸学会令和7年度秋季大会（高知大学），2025年9月。
- d-04. 永田彩夏・登島早紀・小早川紘樹：グルタミン酸およびタンパク質が発芽玄米のGABA含量に及ぼす影響. 日本作物学会第260回講演会（新潟大学），2025年9月。
- e-01. 登島早紀：温暖化に向けた高温ストレス耐性を有する赤果肉リングの作出. 令和5年度研究報告書（一般財団法人旗影会），2024年3月。
- e-02. 登島早紀：作出された複二倍体黒ラズベリーの果実及び葉における健康機能性に向けた品質評価. 2025年度年次報告書（公益財団法人三島海雲記念財団），69. 2025年7月。

【食農経済コース】

石塚 哉史

- a-01. 石塚哉史：ALPS処理水海洋放出以降における日本産ほたて輸出の今日的展開. 開発学研究, **35**(3): 20-28, 2025年3月。

- c-01. 後藤 忍・村上正子・福山隆志・石塚哉史・渡邊幹夫・石黒麻子・仲地里美・藏前隆広：子ども・教職員の安全・健康と環境・食教育. 日本教職員組合編：日本の教育（第74集）. アドバンテージサーバー, 245-258, 2025年6月.
- d-01. 石塚哉史：ALPS処理水海洋放出以降における日本産はたて輸出の今日的展開. 日本国際地域開発学会2024年度秋季大会シンポジウム「農林水産物・食品輸出と地方創生—輸出額5兆円によって産地は活きるのか?—」（於：弘前大学農学生命科学部）, 2024年11月.
- e-01. 原田 彩・市来さゆり・有田道子・林 美佳・坂本麻美・三宅宏枝・石塚哉史・杉木悦子：学校給食の改善. 第35回日教組栄養教職員研究集会報告書, 23-33, 2025年2月.
- e-02. 石塚哉史・松崎正敏：令和6年度今別町・弘前大学共同調査研究事業「いまべつ牛のブランド化に関する調査研究報告書」1-30. 2025年3月.
- f-01. 石塚哉史：農林水産物・食品輸出と地方創生・農林水産業. 日本政策金融公庫北東北創生塾（オンライン）, 2024年10月.
- f-02. 石塚哉史：農林水産物・食品輸出の推進に関する雑感. 日本フードシステム学会ニュース・レター, **77**: 3, 2025年1月.
- f-03. 石塚哉史：ジュノハートの購買行動と消費者意識の現段階. 令和6年度南部町農業講演会（南部町立町民ホール）, 2025年1月.
- f-04. 石塚哉史：卸売業者における青果物輸出の今日的展開—京都青果合同株式会社の取り組み事例を中心に—. 野菜情報 **252**: 37-43, 2025年2月.
- f-05. 石塚哉史：高付加価値果実のマーケティングとサクランボ. 第5回全国サクランボ研究協議会青森県大会（南部町立町民ホール）, 2025年3月.
- f-06. 石塚哉史：座長解題 農林水産物・食品輸出と地方創生—輸出額5兆円によって産地は活きるのか?—. 開発学研究 **35**(3): 1-3, 2025年3月.
- f-07. 石塚哉史：書評 板垣啓四郎著『途上国農業開発論』. 開発学研究, **35**(3): 52-54, 2025年3月.
- f-08. 石塚哉史・松崎正敏：いまべつ牛の地域ブランド化に関する調査・研究. 今別町と国立大学弘前大学との令和5年度共同研究事業成果報告会. 今別町役場, 2025年5月.
- f-09. 大仲克俊・石塚哉史：座長解題 海外での農業参入、海外への農産物輸出の拡大に向けたグローバルなフードシステム構築の新たな展開. 2025年度日本フードシステム学会大会シンポジウム（於：東京海洋大学）, 2025年6月.
- f-10. 石塚哉史：第2報告および第3報告へのコメント. 農村経済研究, **43**(1): 39-40, 2025年7月.

泉谷 眞実

- a-01. 大橋儀輝・泉谷眞実：JA コメ乾燥調製施設における籾殻の発生・利用の特徴と課題—東北稲作地帯・青森県日本海側地域を対象として—. 弘前大学農学生命科学部学術報告, **27**: 1-8, 2025年2月.
- d-01. 泉谷眞実：家畜排せつ物由来のペレット堆肥生産と販売対応の特質. 2025年度日本農業市場学会大会（北海道大学）, 2025年7月.

成田 拓未

- a-01. 成田拓未：日本産りんごの輸出拡大と産地の対応～品種構成に着目して～. 開発学研究, **35**(3): 4-12, 2025年3月.
- f-01. 成田拓未：書評 磯田宏著『世界農業食料貿易構造把握の理論と実証～フードレジーム論と食生活の政治経済学の結合へ向けて～』（筑波書房, 2023年, 122頁）. 食農資源経済論集, **75**(2): 26-29, 2024年11月.
- f-02. 成田拓未：JA グループの生産流通経費高騰への対応～りんごに焦点を当てて～. 農業市場研究, **33**(3): 50-51, 2024年12月.
- f-03. 成田拓未：りんごの価格上昇の行き着く先～近年のりんご価格上昇の要因～. 放送大学青森学習センター・八戸サテライトスペース センターだより—林檎—, **121**: 3-3, 2025年1月.
- f-04. 成田拓未：続・りんごの価格上昇の行き着く先. 放送大学青森学習センター・八戸サテライトスペース センターだより—林檎—, **122**: 7-7, 2025年4月.

石本 雄大

- a-01. 宮寄英寿・石本雄大・John, S.K. BANDA：ザンビアで農民がソルガムとトウモロコシの収穫を放棄するのはどのようなときか？ 雑穀研究, **40**: 1-6, 2025年6月.
- c-01. 石本雄大：時間差の教育論. 日本砂丘学会誌, **71**(1): 27-28, 2024年12月.
- c-02. 石本雄大：畜産業の全体像—伝統と近代技術の混在するブルキナファソの畜産—, 清水貴夫, 中尾世治（編）ブ

ルキナファソを知るための64章, 明石書店, 東京都, pp.58-62, 2025年10月.

- d-01. 宮寄英寿・John S.K. Banda・Oliver Lindunda Daka・石本雄大・梅津千恵子：ザンビア・ルサカ州での早生トウモロコシ栽培に適した施肥管理と品種の選定. 日本国際地域開発学会(弘前大学). 2024年11月.
- d-02. Ishimoto, Y., H. Miyazaki, J. Banda, G. Siagande, C. Umetsu: Analysis of Food Records of Rural Farmers in Southern Zambia, The 7th Lusaka Workshop on Vulnerability and Resilience of Social-Ecological Systems "Food and Nutrition Security for Household and Regional Resilience", Lusaka, Zambia, September, 2025.

佐藤 孝宏

- a-01. 佐藤孝宏・竹本香織：農業部門における特定技能外国人の派遣—青森県及び北海道における事例から—。農村経済研究. 印刷中.
- a-02. Sawada, Y., Y. Kuroishi, T. Ashida, J. Aida, K. Kajisa, H. Hikichi, T. Sato, E. Lucio, K. Kondo, K. Osaka, I. Kawachi: Unhealthy Behaviours in Disaster Survivors are Associated with Scarcity and Present Bias. *Commun. psychol. in press.*
- d-01. 佐藤孝宏：インド乾燥地における営農システムの変容：灌漑水と電力へのアクセスに注目して。日本沙漠学会第36回学術大会公開シンポジウム(弘前大学), 2025年6月.
- d-02. Sato, T., Y. Chisaki, Z. Mizoe: Lifestyle changes in Rural Southeast Asia: with special focus on eating habits. International Conference on "Transformation of Agriculture and Rural Society in Thailand", Research and Development Institute of Nakhon Phanom University, Nakhon Phanom, Thailand, August, 2025.

高野 涼

- a-01. 後藤厚子・高野 涼：複合農業経営と女性農業者—青森県田子町を事例として—。農村経済研究, **43**(1) : 13-23, 2025年7月.
- a-02. Ito, S., R. Takano, M. Endo: Actual Conditions of Fuelwood Supply to Woody Biomass Power Plants by Logging Companies: A Case Study of Iwate Prefecture, *Tohoku journal of forest science* **30**(2): 85-92, September, 2025.
- d-01. 松本一穂・渡辺 優・高田乃倫予・高野 涼・伊藤幸男・國崎貴嗣・山本信次・原科幸爾：間伐前後における森林土壌の透水・保水性の変化. 第136回日本森林学会大会(北海道大学), 2025年3月.
- e-01. 高野 涼：令和6年度「緑の雇用」事業の評価に関する調査報告書. 全国森林組合連合会, 2025年3月.
- e-02. 高野 涼：令和6年度田子町と国立大学法人弘前大学との連携調査研究事業成果報告書「田子町の第1次産業の担い手と労働力確保に向けた受援力向上対策」. 2025年5月.
- f-01. 高野 涼：田子町の第1次産業の担い手と労働力確保に向けた受援力向上対策. 令和6年度田子町と国立大学法人弘前大学との連携調査研究事業成果報告会(田子町), 2025年5月.

【地域環境工学科】

遠藤 明

- a-01. 遠藤 明・縄田尚伸・永吉武志：ナガイモ成育中の畑作圃場における植え溝土壌の観測の試み. 農業農村工学会誌, **93**(2): 3-8, 2025年2月.
- d-01. 遠藤 明・永吉武志：ナガイモ圃場における栽培前後の土壌物理性と植え溝土壌の力学的挙動特性. 2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会(宇都宮市), 9-6(P), 2025年9月.

藤崎 浩幸

- d-01. 亀倉 花・藤崎浩幸：宿泊施設・地域の魅力と地域ファン獲得 青森県内の宿泊施設宿泊者を対象として. 2024年度農村計画学会全国大会(神戸市), 2024年11-12月.
- d-02. 藤崎浩幸・齋藤朱未：台湾観光農場におけるCOVID-19への対応. 2024年度農村計画学会全国大会(神戸市), 2024年11-12月.
- d-03. 藤崎浩幸・花塚賀央：JABEE農業工学関連分野における認定プログラムと修了生の動向. 2025年度農業農村工学会大会講演会(宇都宮市), 2025年9月.
- e-01. 平井太郎・藤崎浩幸・岸岡智也：あおり型農村RMOの育成に向けたサポート及び提言業務研究成果報告書, 2024年3月.

丸居 篤

- a-01. 矢田谷健一・小池晴人・廻立出海・丸居 篤・東 信行：プールタイプ越流式魚道におけるプール間水位差とウキゴリ類の遡上成功率の関係. 農業農村工学会論文集, **92**(2): I_259-I_268, 2024年12月.
- a-02. 矢田谷健一・三木響太郎・丸居 篤・東 信行：カジカ小卵型当歳魚の流水中における挙動と前進能力. 農業農村工学会論文集, **92**(2): II_69-II_75, 2024年12月.
- a-03. 四宮一隆・山本清仁・丸居 篤・飯田俊彰：水稲有機栽培における自動抑草ロボットの導入効果：除草作業の軽減と新たな作業負担. 農作業研究, **60**(1): 3-12, 2025年3月.
- a-04. Shinomiya K., K. Yamamoto, A. Marui, T. Iida: Mechanisms of weed suppression by an autonomous weeding robot in organic rice paddy field. *Soil Science and Plant Nutrition*. <https://doi.org/10.1080/00380768.2025.2532466>, July, 2025.
- d-01. 永江柚子・丸居 篤・矢田谷健一：乾燥地における繊維素材を利用した地中負圧差灌漑のための基礎実験. 2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会(宇都宮市), 2025年9月.
- d-02. 山家廉大・丸居 篤・矢田谷健一：積雪地帯における土地改良区の水利権変更に関する能力や意識, 要望の調査. 2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会(宇都宮市), 2025年9月.
- d-03. 伊藤和磨・矢田谷健一・廻立出海・丸居 篤・東 信行：越流式プールタイプ魚道における局所改良とニホンウナギの遡上行動の関係. 2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会(宇都宮市), 2025年9月.
- d-04. 小野 真・矢田谷健一・堀内孝人・渡邊 潔・丸居 篤・東 信行：側壁傾斜型魚道の壁面改良の基礎的実験. 2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会(宇都宮市), 2025年9月.
- d-05. 小野 真・矢田谷健一・堀内孝人・渡邊 潔・丸居 篤・東 信行：側壁傾斜型魚道への球状突起導入による機能向上の基礎的研究. 応用生態工学会第28回新潟大会(新潟市), 2025年9月.

森 洋

- a-01. 森 洋・西村 武：補強材を伴った受働モードでのトラップドア模型実験. 農業農村工学会論文集, No.319(92-2), pp.IV_9-IV_12, 2024年12月.
- a-02. 森 洋・高部侑汰：ゾーニング形式が異なる「ため池堤体」の小型振動台模型実験. 農業農村工学会論文集, No.319(92-2), pp.IV_13-IV_16, 2024年12月.
- a-03. 森 洋・三浦恵祐：GISを用いた北海道・東北・関東地域での農業用ため池分布特性の分析. 農業農村工学会論文集, No.320(93-1), pp.IV_1-IV_4, 2025年6月.
- a-04. 森 洋・西村 武：補強材を伴った主動モードでのトラップドア模型実験と有限要素解析. 地盤工学ジャーナル, Vol.20, No.2(6月号), 263-269, 2025年6月.
- a-05. 森 洋：青森県廻堰大溜池堤体での小動物等の巣穴被害調査. 農業農村工学会誌, **93**(9): 29-32, 2025年9月.

- b-01. 共著分担 (4.2.1 ファイルダムの保全管理の基本【pp.85-97】を執筆)：農業用ダム保全管理工学. 農業農村工学会. ISBN 978-4-88980-179-8, 2025年8月.
- d-01. 森 洋・三浦恵祐:GISを用いた都道府県別のため池分布特性. 2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会(宇都宮大学), 615-616, 2025年9月.
- d-02. 森 洋・西村 武:補強材を敷設した繰り返し载荷によるトラップドア模型実験. 2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会(宇都宮大学), 559-560, 2025年9月.
- d-03. 森 洋・高部侑汰:ゾーニング形式が異なるフィルダムの小型振動台模型実験. 2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会(宇都宮大学), 525-526, 2025年9月.
- d-04. 森 洋・高田侑二郎:小型振動台模型実験を対象とした静的・動的弾塑性有限要素解析. 2025年度(第74回)農業農村工学会大会講演会(宇都宮大学), 567-568, 2025年9月.
- f-01. 三浦恵祐・森 洋:GISを用いた都道府県別での農業用ため池分布特性. 土地改良 **330**号. 61-63, 2025年7月.
- f-02. 高田侑二郎・森 洋:ため池堤体を対象とした弾塑性有限要素解析による耐震性の再評価. 土地改良 **330**号. 63-65, 2025年7月.

加藤 幸

- d-01. 千葉克己*・加藤 幸:心土破碎と明渠の整備による排水不良耕作放棄水田の改良. 日本農作業学会2025年度春季大会(新潟大学), 2025年3月.
- d-02. 加藤 幸・千葉克己*:情報共有による伝統野菜(セリ)に関する栽培技術の継承. 農業農村工学会大会(宇都宮大学), 2025年9月.

*宮城大学事業構想学群

加藤 千尋

- a-01. Suzuki, T., J. Asano, Y. Kojima, C. Kato, K. Kamiya: Evaluating the impact of site-specific bias correction of GCM on projection of future soil temperature and moisture: a case study in plain and mountainous regions of Gifu Prefecture, Japan. *Hydrological Research Letters* **19**(3): 171-176, July 2025.
- d-01. 加藤千尋・藤野真矢・木村京平・佐藤直人・青木伸輔・小島悠揮:積雪寒冷地の遊休農地における緑肥栽培が土壌の二酸化炭素動態および炭素貯留に及ぼす影響. 令和7年度農業農村工学会大会講演会(宇都宮大学), 2025年8月.

鄒 青穎

- a-01. Kakinuma, H., C.Y. Tsou*, D. Higaki, R. Kawakami, C.S. Gautum: Assessing the long-term effectiveness and socioeconomic benefits associated with ecosystem-based disaster risk reduction measures aimed at mitigating the impact of sediment-related events in Nepal, *Progress in Disaster Science*, **28**, 100464, September., 2025.
- a-02. 小岩直人・鄒 青穎・高橋未央・金 俊之・中村智行:時系列デジタル画像を用いた洪水時の氾濫拡大過程の復元—2022年8月豪雨における青森県中村川下流域の事例—. *地形*, **46**(1): 15-33, 2025年6月.
- a-03. Leidemer, T., M. L. Lopez Caceres, Y. Diez, C. Ferracini, C.Y. Tsou, M. Katahira: Evaluation of Temporal Trends in Forest Health Status Using Precise Remote Sensing, Drones, **9**(5): 337, April, 2025.
- a-04. Tran, T.C.N., C.M.L. Lopez, S.G. Riera, M. Conciatori, Y. Kuwabara, C.Y. Tsou, Y. Diez: Using UAV RGB Images for Assessing Tree Species Diversity in Elevation Gradient of Zao Mountains, *Remote Sensing*, **16**(20): 3831, October, 2024.
- d-01. 鄒 青穎: JICAプロジェクトに学ぶネパールのEco-DRR: その持続的効果と社会経済インパクト. 一般社団法人青森県コンサルタント協会 令和7年度 技術研修会(斜面防災の技術・工法)(青森市), 2025年9月.
- d-02. 五十嵐勇氣・横山誠弥・相馬吉裕・鄒 青穎・矢田谷健一・東信行: 青森県の事例から見る透過型砂防堰堤の魚類の移動経路としての機能向上を目的とした工夫. 令和7年度砂防学会研究発表会「長野大会」, 2025年5月.
- d-03. 柿沼隼人・鄒 青穎・川上礼央奈・檜垣大助・Chandra Sekar GAUTUM: ネパールの土砂災害防止におけるEco-DRRの長期的効果と社会経済への影響. 令和7年度砂防学会研究発表会「長野大会」, 2025年5月.
- d-04. 川上礼央奈・鄒 青穎・石川幸男・荻田 茂・林 一成・栗山大助・伊藤啓太: 自然を活用した解決策による河川物理環境の改善: 水理実験からの示唆, 自然共生の可能性. 令和7年度砂防学会研究発表会「長野大会」, 2025年5月.
- d-05. 小岩直人・鄒 青穎・高橋未央・山崎 武: 豪雨イベントが景観に与える地形変化に関する検討 —人為に維持

された奥入瀬溪流の事例一. 日本地球惑星科学連合(幕張), 2025年5月.

- d-06. Kawakami, R., C.-Y. Tsou, Y.A. Ishikawa, S. Ogita, K. Hayashi, D. Kuriyama, K. Ito: Multi-Temporal Analysis of Scarp Expansion in the Kamitokitozawa Landslide: Insights from Tree-Ring, UAV Data, and Google Earth Imagery. EGU General Assembly (Vienna), May, 2025.
- d-07. Kakinuma, H., C.-Y. Tsou, R. Kawakami, D. Higaki: Long-term effectiveness and socioeconomic impact of Eco-DRR measures in Nepal: lessons from JICA's projects. EGU General Assembly (Vienna), May, 2025.
- d-08. Tsou, C.-Y., Z. Bhusal, H. Kakinuma, R. Kawakami, D. Higaki, J.K. Bhusal, S. Dhakal, S.C. Amatya: Sediment disasters induced by the 26-28 September 2024 extreme rainfall event in Nallu Khola watershed of Central Nepal. EGU General Assembly (Vienna), May, 2025.
- d-09. Ogita, S., C.-Y. Tsou, K. Hayashi, S. Abe: Advancing Landslide Investigations: High-Resolution Slip Surface Estimation Using UAV Technology. EGU General Assembly (Vienna), May, 2025.
- d-10. 郷 青穎・荻田 茂・川上礼央奈: 多時期UAVレーザ測量データによる地表面変位ベクトルを利用した三次元すべり面形状の推定. 斜面未災研究集会(京都市), 2025年3月.
- e-01. 郷 青穎: 令和7年4月弘前市悪戸後沢地区で発生した地すべりについて(速報), <https://researchmap.jp/tsouchingying/misc/46073647>, 2025年4月.
- e-02. 郷 青穎: 白神山地の地すべり一樹木年輪とGNSSが示す動きの実態, 山が動く, 一般財団法人 斜面災害対策技術協会 東北支部, **27**: 2-14, 2025年4月.
- e-03. 郷 青穎: 十二湖の魅力に迫る!!, 弘前大学農学生命科学部山間地環境計画学研究室, <https://researchmap.jp/tsouchingying/misc/49167667>, 2025年3月.
- e-04. 郷 青穎: 探索十二湖の奇観!!, 弘前大学農学生命科学部山間地環境計画学研究室, <https://researchmap.jp/tsouchingying/misc/49167681>, 2025年3月.
- e-05. 郷 青穎: Discover the Wonders of Lake Jūniko (Twelve Lakes)!!, 弘前大学農学生命科学部山間地環境計画学研究室, <https://researchmap.jp/tsouchingying/misc/49167801>, 2025年3月.
- e-06. 郷 青穎: ヒマラヤ地域における森林等の生態系を活かした防災・減災(Eco-DRR)の効果的展開と社会経済への影響: ネパールの事例研究, R6年度砂防・地すべり技術センター研究開発助成報告, 2025年3月.

岸岡 智也

- a-01. Yamashita, R., T. Kishioka: Impacts of Excessive Japanese Black Bear Appearances on Residents' Daily Lives. *International Review for Spatial Planning and Sustainable Development*, **12**(4): 28-43, October, 2024.
- a-02. 木村 聡・松本京子・岸岡智也・浦田 慎・能丸恵理子・松原道男・鈴木信雄: 海洋教育(里海科)が海の理解と学習面に与える影響に関する研究—「海洋教育の教育効果に関するアンケート調査」より—. *海の教育*, **1**: 53-69, 2024年12月.
- d-01. Kishioka, T.: Symbol Species in Regional and Agricultural Development -A case study of oriental white stork rehabilitation project in Japan. *International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES) 2024 International Conference (Taiwan)*. December, 2024.
- d-02. 岸岡智也・松本京子: 希少野生動物との共生を目指した農村地域づくり—台湾新北市金山区におけるソデグロヅル飛来の事例—. *農村計画学会2024年度秋期大会(神戸大学)*, 2023年11月.
- d-03. 岸岡智也・松本京子: カンムリワシの交通事故防止に関わる連携体制. 第10回山岳科学学術集会・第29回「野生生物と社会」学会合同大会(静岡大学), 2024年12月.
- e-01. 平井太郎・藤崎浩幸・岸岡智也: あおもり型農村RMOの育成に向けたサポート及び提言業務研究成果報告書, 2024年3月.

矢田谷 健一

- a-01. 矢田谷健一・小池晴人・廻立出海・丸居 篤・東 信行: プールタイプ越流式魚道におけるプール間水位差とウキゴリ類の遡上成功率の関係. *農業農村工学会論文集*, **92**(2): I_259-I_268, 2024年12月.
- a-02. 矢田谷健一・三木響太郎・丸居 篤・東 信行: カジカ小卵型当歳魚の流水中における挙動と前進能力. *農業農村工学会論文集*, **92**(2): II_69-II_75, 2024年12月.
- d-01. Uematsu, S., A. Itoh, D. Tahara, K. Yataya, N. Takahashi: Experimental study on partitions in the V-shaped portable fishway considering the utilization of sculpins. *International Society of Paddy and Water Environment Engineering 2024 (Taiwan)*. 2024.10.

- d-02. 五十嵐勇気・横山誠弥・相馬吉裕・鄒 青穎・矢田谷健一・東 信行：青森県の事例から見る透過型砂防堰堤の魚類の移動経路としての機能向上を目的とした工夫. 令和7年度砂防学会研究発表会（長野市），2025年5月.
- d-03. 伊藤和磨・矢田谷健一・廻立出海・丸居 篤・東 信行：越流式プールタイプ魚道における局所改良とニホンウナギの遡上行動の関係. 2025年度（第74回）農業農村工学会大会講演会（宇都宮市），2025年9月.
- d-04. 小野 真・矢田谷健一・堀内孝人・渡邊 潔・丸居 篤・東 信行：側壁傾斜型魚道の壁面改良の基礎的実験. 2025年度（第74回）農業農村工学会大会講演会（宇都宮市），2025年9月.
- d-05. 高橋直己・植松桜矢・矢田谷健一・田原大輔：カジカ類が利用可能な可搬魚道に関する実験的検討. 2025年度（第74回）農業農村工学会大会講演会（宇都宮市），2025年9月.
- d-06. 永江柚子・丸居 篤・矢田谷健一：乾燥地における繊維素材を利用した地中負圧差灌漑のための基礎実験. 2025年度（第74回）農業農村工学会大会講演会（宇都宮市），2025年9月.
- d-07. 山家廉大・丸居 篤・矢田谷健一：積雪地帯における土地改良区の水利権変更に関する能力や意識，要望の調査. 2025年度（第74回）農業農村工学会大会講演会（宇都宮市），2025年9月.
- d-08. 小野 真・矢田谷健一・堀内孝人・渡邊 潔・丸居 篤・東 信行：側壁傾斜型魚道への球状突起導入による機能向上の基礎的研究. 応用生態工学会第28回新潟大会（新潟市），2025年9月.

【生物共生教育研究センター】

姜 東鎮

- a-01. Zhu, L., X. Pan, Y. Alahakoon, P. Jia, V. Chaerusani, D.J. Kang, C. Wang, G. Xu, A. Abudula, G. Guan: Optimizing hydrogen-rich gas production from pyrolyzed miscanthus through steam gasification in a batch-feeding fluidized-bed reactor. *Int. J. Hydrogen Energy*, **166**: 150889, September, 2025.
- a-02. Alahakoon, Y., A.C.A. Zahra, P. Panpian, L. Zhu, V. Chaerusani, P. Jia, D.J. Kang, A. Abudula, G. Guan: Inherent potassium-induced synergy and transformation during steam co-gasification of Giant Miscanthus with Napier grass biochar. *Int. J. Hydrogen Energy*, **106**: 1417–1428, March, 2025.
- a-03. Jia, P., R. Yang, L. Zhu, V. Chaerusani, P. Panpian, D.J. Kang, A. Abudula, G. Guan: Enhanced reusability of hollow-structured HZSM-5 catalyst in bio-oil upgrading. *Proc. Conf. Biomass Sci.*, 101–102, December, 2024.
- a-04. Zhu, L., P. Jia, Y. Alahakoon, D.J. Kang, A. Abudula, G. Guan: Steam gasification of herbaceous biochar by using a visualized fluidized bed. *Proc. Conf. Biomass Sci.*, 99–100, December, 2024.
- f-01. 姜 東鎮：イネの栽培管理（延べ三日間）。生物共生教育研究センター主催親子体験学習講師。

房 家琛

- a-01. 木村友美・房 家琛・松崎正敏：母めん羊の初乳中ホルモン濃度と産子の増体との関連。東北畜産学会報, **75**(1): 1–9, 6月, 2025.
- a-02. Fang, J., H. Kimura: Effect of heating brown rice and unhulled rice liquid feed on growth performance and meat quality in finishing pigs. *Jpn. J. Swine Sci.*, **62**: 69–78, September, 2025.

林田 大志

- a-01. Saito, T., T. Hayashida, S. Sato, T. Fujita, N. Yatin, Y. Fujisaku, K. Ohkawa, T. Moriguchi: Enhanced red pigmentation in yellow/green apples via paper bagging treatment. **341**(2025). February, 2025.
- d-01. 林田大志・佐藤早希・藤田知道・中込光穂・松本和浩：リンゴ‘紅の夢’のY字栽培に適した台木種の選定。2025年度園芸学会令和7年度春季大会, 2025年3月。
- d-02. 藤田知道・佐藤早希・中込光穂・松本和浩・林田大志：‘ふじ’の枝変わりリンゴ新品種‘麒麟児’。2025年度園芸学会令和7年度春季大会, 2025年3月。

【白神自然環境研究センター】

中村 剛之

- c-01. 森井涼太・安田晶南・伊藤 響・丹羽奎太・中村剛之：白神山地の両生類（弘前大学白神自然環境研究センターブックレット），2025年3月。
- d-01. 中村剛之：雪の中で暮らす日本産クモガタガガンボ属 *Chionea* の多様性（Diptera, Limoniidae）。日本昆虫学会第85回大会（厚木），2025年9月。
- f-01. 葉山 茂・中村剛之：とびだせ学芸員！弘前大学の学芸員教育（企画展，於：弘前大学資料館），2024年10月。
- f-02. 中村剛之：しらかみさんちの動物展（企画展，於：白神山地ビジターセンター），2024年10-11月。
- f-03. 中村剛之：生物相調査の意義と楽しさを伝える白神BioBlitzの試み（講演，国立科学博物館GBIFワークショップ，オンライン），2024年12月。
- f-04. 中村剛之：大学で描く～学び，記録する学術スケッチ2～（企画展，於：弘前大学資料館），2025年3-5月。
- f-05. 葉山 茂・中村剛之：博物館実習II展示習作展（企画展，於：弘前大学資料館），2025年9月。

山岸 洋貴

- a-01. 首藤光太郎・立花道草・山ノ内崇志・堀内 弦・加藤 将・三浦克仁・成田陸人・志賀 隆・吉田理見・横川寛太・山岸洋貴：青森県つがる市の「無名池」の水生植物相。水草研究会誌，**117**: 1-11，2025年3月。
- d-02. 山岸洋貴・小黒陽太郎：来訪者の踏み入れが奥入瀬溪流の植生に与える影響について。日本生態学会第72回全国大会（札幌），2025年3月。
- e-01. 山岸洋貴・加藤千尋：特別名勝及び天然記念物「十和田湖および奥入瀬溪流」踏査による林床の下層植生調査報告書。十和田市教育委員会，2025年2月。
- f-01. 山岸洋貴：青森県における野生植物をめぐる現状～古くて新しい？自然史情報収集の大切さ～（シンポジウム招待講演）。東北植物学会第14回大会（弘前），2024年12月。

相馬 純

- a-01. Souma, J., C. V. C. Le, T.-H. Pham: First formal record of the feeding habits of Saileriolidae (Hemiptera, Heteroptera, Pentatomomorpha, Pentatomoidea), with redescription of *Bannacoris hyalinus* (Schaefer & Ashlock, 1970), comb. nov. endemic to Vietnam. *Zookeys*, **1221**: 363-375, December, 2024.
- a-02. Souma, J.: A new species and two new records of the moss-feeding lace bug genus *Acalypta* (Hemiptera, Heteroptera, Tingidae) from Hokkaido, northern Japan, with an illustrated key to the Japanese species of the genus. *Zookeys*, **1229**: 107-332, February, 2025.
- a-03. Aiba, H., J. Souma, H. Inose: A new genus and species of Microphysidae (Hemiptera: Heteroptera) with long labium in Late Cretaceous Iwaki amber from Futaba Group of Iwaki City, Fukushima Prefecture, Japan. *Paleontolog. Res.*, **29**: 44-53, March, 2025.
- a-04. Souma, J., T. T. Vu, T.-H. Pham: New records of two species of Pyrrhocoroidea from Vietnam (Hemiptera, Heteroptera, Largidae and Pyrrhocoridae). *Check List*, **21**(4): 699-704, August, 2025.
- a-05. Souma, J.: An illustrated key to the lace bugs (Hemiptera, Heteroptera, Tingidae) from "Oriental Galapagos" (the Ogasawara Islands, Japan), with descriptions of three new species of the endemic genus *Omoplax* Horváth, 1912. *Zookeys*, **1250**: 243-284, August, 2025.
- a-06. Souma, J., A. Yamamoto: Taxonomic study of the subgenus *Limnonabis* of the genus *Nabis* (Hemiptera: Heteroptera: Nabidae: Nabinae: Nabini) from Japan, with description of *N. (L.) marihygrophilus* sp. nov. inhabiting estuarine wetlands in northern Japan. *J. Insect Biodivers.*, **69**(1): 21-38, September, 2025.
- d-01. 相馬 純・久末 遊・嶋本習介：小笠原諸島父島の固有カメムシはなぜグリーンアノールに捕食されながらも健在か？。第4回オンライン基礎昆虫学会議（オンライン開催），2025年3月。
- d-02. 相馬 純：小笠原諸島の固有カメムシ：多様な生態的特性がもたらす保全研究と種分化研究への有用性。日本昆虫学会第85回大会（東京農業大学），2025年9月。
- d-03. 伴 光哲・相馬 純・久末 遊：日本産ヨツボシチビナガカメムシ属（カメムシ目：ナガカメムシ上科：ヒョウタンナガカメムシ科）の分類学的研究。日本昆虫学会第85回大会（東京農業大学），2025年9月。
- d-04. 嶋本習介・伴 光哲・岸本年郎・相馬 純：聳島列島のカメムシ亜目の種多様性。日本昆虫学会第85回大会（東

京農業大学), 2025年9月.

- d-05. 相馬 純: 小笠原諸島のマイナー昆虫: 若手研究者の需要と最近の事例紹介. 小笠原マイナー昆虫若手の会 (東京農業大学), 2025年9月.
- e-01. 相馬 純・石川 忠: 陸生カメムシ類4科8種の和名と学名の整理. *Rostria*, **69**: 11-18, 2024年12月.
- e-02. 相馬 純: ゲンバウムシ科15属31種の和名と学名の整理 (補遺). *Rostria*, **69**: 48-53, 2024年12月.
- e-03. 相馬 純: クスベニヒラタカスミカメの沖縄諸島への侵入. *Rostria*, **69**: 54-55, 2024年12月.
- e-04. 相馬 純: ヤブニッケイゲンバイの北陸地方からの初記録. *Rostria*, **69**: 56-57, 2024年12月.
- e-05. 相馬 純・後藤聖士郎・石川 忠: トゲクロボシカメムシの九州からの初記録. *Rostria*, **69**: 97-98, 2024年12月.
- e-06. 伴 光哲・相馬 純・能登靖貴・中村 涼: 千葉県におけるミヤモトマルゲンバイの初記録とマルゲンバイの追加記録. *Rostria*, **69**: 111-117, 2024年12月.

農学生命科学部学術報告編集委員会

小林 一也 (生物学科)

高田 晃 (分子生命科学科)

松山 信彦 (食料資源学科)

委員長：泉谷 眞実 (国際園芸農学科)

丸居 篤 (地域環境工学科)

2026年1月16日 印刷

2026年1月23日 発行

編集兼発行者 **弘前大学農学生命科学部**
〒036-8561 弘前市文京町3

印刷所 **やまと印刷株式会社**
〒036-8061 弘前市神田4丁目4-5

Published by

Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University
3 Bunkyo-cho, Hirosaki, Aomori 036-8561, Japan
23 January 2026

Printed by

Yamato Printing Co., Ltd.
4-4-5 Kanda, Hirosaki, Aomori 036-8061, Japan
16 January 2026

BULLETIN OF
THE FACULTY OF AGRICULTURE AND LIFE SCIENCE, HIROSAKI UNIVERSITY

Number 28

January, 2026

CONTENTS

Asunaro Prize 2024	1
Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University, 2024 (October) — 2025 (September)	9